

第3期中期目標期間実績補足資料 (平成23～27年度)

目 次

I. 中期目標の期間

II 国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項

- 1 歴史・伝統文化の保存と継承の中核的拠点としての収蔵品の整備と、次代への継承
- 2 文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
- 3 我が国における博物館の中核として博物館活動全体の活性化に寄与
- 4 文化財に関する調査及び研究の推進
- 5 文化財保護に関する国際協力の推進
- 6 情報資料の収集・整備及び調査研究成果の発信
- 7 地方公共団体への協力等による文化財保護の質的向上

III 業務運営の効率化に関する事項

- 1 一般管理費等の削減
- 2 給与水準の適正化等
- 3 契約の適正化の推進
- 4 保有資産の有効利用の推進
- 5 内部統制の充実・強化

IV 財務内容の改善に関する事項

- 1 自己収入の増加
- 2 固定的経費の節減

V その他業務運営に関する重要事項

- 1 施設・設備に関する計画
- 2 人事に関する計画

I 中期目標の期間

平成23年4月1日から平成28年3月31日

II 国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項

1 歴史・伝統文化の保存と継承の中心的拠点としての収蔵品の整備と、次代への継承

中期目標

- (1) 国の文化財保護政策との整合性、一体性を保ちつつ機構の設置する博物館各館の役割・任務に沿って収集方針を定め、これに基づき、計画的かつ適時適切な購入と寄贈・寄託の受入れを進め、体系的・通史的にバランスのとれた収蔵品の充実と保全を図ること。
- (2) 収蔵品全体を常時、適切な保存及び管理環境下に置くこと。特に、施設の老朽化、耐震対策に計画的かつ速やかに取り組み、収蔵品と人の安全を守る施設・設備の整備を図ること。
- (3) 収蔵品の保存技術の向上に努めること。

中期計画

1 歴史・伝統文化の保存と継承の中核的拠点としての収蔵品の整備と、次代への継承

- (1) - 1 体系的・通史的にバランスのとれた収蔵品の蓄積を図る観点から、次に掲げる各館の収集方針に沿って、外部有識者の意見等を踏まえ、適時適切な収集を行う。また、そのための情報収集を行う。
(東京国立博物館)
日本を中心にして広くアジア諸地域にわたる美術、考古資料及び歴史資料等を収集する。
(京都国立博物館)
京都文化を中心とした美術、考古資料及び歴史資料等を収集する。
(奈良国立博物館)
仏教美術及び奈良を中心とした美術、考古資料及び歴史資料等を収集する。
(九州国立博物館)
日本とアジア諸地域との文化交流を中心とした、美術、考古資料及び歴史資料等を収集する。
- (1) - 2 収蔵品の体系的・通史的なバランスに留意し、寄贈・寄託品の受け入れを推進するとともに、積極的に活用する。また、既存の寄託品については、継続して寄託することを働きかけ、積極的に活用する。
- (2) - 1 国民共有の貴重な財産である文化財を永く次世代へ伝えるため、収蔵品の保存・管理を徹底する。現状を確認の上、写真・管理データを蓄積して、展示・研究等の業務に活かし、博物館活動を充実する。
- (2) - 2 展示場、収蔵庫の老朽化に対応するとともに、温湿度、生物生息、空気汚染、地震等への対策を計画的かつ速やかに実施し、保存・管理・活用のための環境整備を行う。
- (3) - 1 修理を要する収蔵品等は、機構の保存科学及び修復技術担当者の連携の下、伝統的な修理技術とともに科学的な保存技術の成果を適切に取り入れながら、緊急性の高い収蔵品等から順次、計画的に修理する。
- (3) - 2 国立博物館の文化財保存修理所の整備・充実に努める。
- (3) - 3 収蔵品、寄託品の増加に伴う収蔵スペースの確保及び収蔵品の調査・研究並びに修理に伴う調査・研究のための基本設備の充実を図る。

実績

(1) 収蔵品の収集

4館とも、各館の収集方針に沿って文化財の収集を行った。購入及び寄贈・寄託の受入においては、規程に従い、「鑑査会議」(東博・九博)、「陳列品鑑査会」(京博・奈良博)での審議を経て行っている。

文化財購入費は、23年度の東京国立博物館の東洋館、25年度の京都国立博物館の平成知新館のリニューアル開館に向けた準備のため購入経費が確保できなかった。しかしながら、26年度に特殊要因運営費交付金910百万円が措置され、27年度に経常経費化された。さらに、各館の努力による寄附金の受入と活用にも努めている。

寄贈については、下記のとおり、毎年度多数の寄贈を受けている。

寄託については、コレクション等まとまった作品群の受託もあり、26年度と27年度と連続して件数を増加させることができた。また、25年度、26年度と連続して減少数が大きかった九州国立博物館においても27年度は増加に転じた。

【収蔵品件数推移】(件)

	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
東京国立博物館	113,897	114,362	115,653	116,268	116,932
京都国立博物館	6,621	6,708	6,721	7,109	7,532
奈良国立博物館	1,831	1,834	1,862	1,877	1,883
九州国立博物館	453	474	493	512	525
合計	122,802	123,378	124,729	125,766	126,872

【文化財購入費推移】(百万円)

	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
東京国立博物館	0	106	124	140	226
京都国立博物館	48	22	0	227	798
奈良国立博物館	102	27	40	262	140
九州国立博物館	569	719	725	727	609
合計	719	874	889	1,356	1,773

【寄贈件数推移】(件)

	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
東京国立博物館	151	63	471	100	148
京都国立博物館	24	86	13	378	405
奈良国立博物館	0	1	25	0	2
九州国立博物館	1	3	4	5	8
合計	176	153	513	483	563

【寄託品件数推移】(件)

	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
東京国立博物館	2,689	2,563	2,519	3,064	3,072
京都国立博物館	6,013	5,914	5,892	6,001	6,112
奈良国立博物館	1,945	1,951	1,994	1,984	1,987
九州国立博物館	1,219	1,238	1,081	795	885
合計	11,866	11,666	11,486	11,844	12,056

(2) 収蔵品の管理、保存

①施設の老朽化対策、耐震対策として、各施設にて改修工事や収蔵庫の利用開始を行った。収蔵品全体を常時、適切な保存及び管理環境下に置くための取組みを行った。主なものは以下のとおり。

- ・23年度：東洋館収蔵庫に稼働棚を設置し、利用開始（東博）
- ・25年度：収蔵庫ガス消火設備工事完了（奈良博）
- ・26年度：25年度まで建替工事と内装工事を行っていた平成知新館の収蔵庫等の利用開始（京博）
- ・27年度：法隆寺宝物館改修工事を完了した。（東博）

②収蔵品全体を常時、適切な保存及び管理環境下に置くため、以下の取組みを行った。

- ・文化財情報システム（業務システム）について、システムを改修しつつ、運用を継続し、収蔵品データを更新した（4館）。
- ・展示場、収蔵庫等において、温湿度、生物生息、空気汚染、地震等への対策を計画的に実施した。（4館）
- ・収蔵品の現状を確認の上作成したデータ（写真・テキスト）を蓄積してデータベース化し、展示・研究等の業務に活かした（4館）。収蔵品の修理や列品貸与の際の点検時等に作成している保存カルテについて、作成・蓄積を継続して行った（4館）。

【保存カルテ作成件数推移】(件)

	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
東京国立博物館	1,187	1,594	1,492	1,721	1,432
京都国立博物館	249	215	253	204	102
奈良国立博物館	130	127	120	115	100
九州国立博物館	107	91	94	75	91
合計	1,673	2,027	1,959	2,115	1,725

(3) 収蔵品の保存技術の向上

収蔵品の保存技術の向上のため、収蔵品の修理を継続して行い、科学機器の導入と活用、文化財保存修理所の整備を実施した。

- ・4館とも、各館の修理計画に基づいて収蔵品の修理を行い、修理件数はほぼ毎年度、目標値を上回った。
- ・緊急性の高い収蔵品等から計画的に修理を実施した(4館)。
- ・25年度に調達をした大型垂直式X線断層撮影装置(東博)やマイクロフォーカスX線CTシステム(京博)の運用を26年度から開始、X線透過撮影(奈良博)や蛍光X線分析(九博)など、全館で最新の科学機器を計画的に導入し文化財の修理に活用している。
- ・26年度に、京都国立博物館文化財保存修理所の改修工事は、一期工事を完了し、電気設備及び機械設備の改修工事に着手し、27年度に二期工事を完了した。
- ・26年度に、京都国立博物館と奈良国立博物館の文化財保存修理所の空調機を点検し、フィルターを交換するなど改善した。
- ・27年度に、九州国立博物館の保存修復施設内の室内温湿度環境の改善を行った。

収蔵スペースの確保のため、改修工事等を行った(主なものは以下のとおり)。

- ・23年度に東洋館収蔵庫の改修工事を行った。(東博)
- ・26年度より平成知新館収蔵庫の運用開始。27年度には収蔵品の配置を再検討し、収蔵空間の効率化を図った(京博)

【修理件数推移】(件)

	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
東京国立博物館	106	95	93	78	86
京都国立博物館	10	13	15	11	12
奈良国立博物館	11	9	8	9	11
九州国立博物館	19	20	17	23	22
合計	146	137	133	121	131

2 文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信

中期目標

文化財を活用して日本及びアジア諸地域の歴史・伝統文化を国内外へ発信するため、展示、教育活動、広報の充実を図ること。

(1) 展覧事業の充実

我が国の中核的拠点として、展覧事業については常に点検・評価を行うなど改善への取組みを進め、日本及びアジア諸地域の歴史・伝統文化を国内外に発信し、これらについての理解促進に寄与するものとなるように努めること。

- ①展覧事業の中核である平常展は、歴史・伝統文化についての理解に資するよう、体系的・通史的な展示に努めるとともに、各館の収蔵品を法人全体として有効活用した魅力ある展示を行うこと。また、より多くの方々に我が国の歴史・文化財の理解を深めてもらうため、来館者の増加に努めること。さらに海外からの来訪者が必

ず訪れる博物館を目指し、魅力ある展示と展示に関する説明を一層充実させること。

②特別展等については、国内外の博物館と連携した我が国の中核的拠点にふさわしい質の高い展示を行うこと。また、展示方法、解説などについて機構の人的資源を最大限に生かした魅力あるものを提供すること。また、展示内容・展覧環境を踏まえた適切な来館者数の確保に努めること。

③海外に向けても機構の各博物館の収蔵する日本の優れた文化財と優れた人材を活用して、我が国の歴史と伝統文化を紹介する機会の拡充に努めること。

(2) 教育活動の充実

日本及びアジア諸地域の歴史・伝統文化の理解促進に寄与するよう、子どもから成人まで、対象に応じた多彩な学習機会の提供を実施し、ボランティアを育成し、教育活動の充実に努めるとともに、次代の博物館事業を担う人材育成に寄与すること。

(3) 快適な観覧環境の提供

国民に親しまれ、他の館の見本となる施設を目指し、来館者の立場に立った観覧環境の整備や観覧料金及び開館時間の弾力化などの利用者の要望を踏まえた管理運営を行い、来館者の期待に応えること。

(4) 文化財情報の発信と広報の充実

文化財情報の蓄積と発信の充実に努めるとともに、展示及び各種事業に関し、積極的な広報に努めること。

中期計画

2 文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信

文化財を活用して日本及びアジア諸地域の歴史・伝統文化を国内外へ発信するため、展示、教育活動、広報の充実に努めるとともに、政府の観光政策と連動した観光資源としても活用を図る。

(1) 展覧事業の充実

我が国の中核的拠点として、展覧事業については、常に点検・評価を行い国民のニーズ、学術的動向等を踏まえた質の高いものを実施するとともに、展覧会を開催するにあたっては、開催目的、期待する成果、学術的意義を明確にし、国際文化交流に配慮するなど魅力あるものとする。

また、見やすさ分かりやすさに配慮した展示及び解説や音声ガイド等の導入を行うことにより、日本及びアジア諸地域の歴史・伝統文化についての理解を深めるものとなるよう工夫する。

①-1 平常展は、展覧事業の中核と位置付け、各国立博物館の特色を十分に発揮した体系的・通史的なものとする。最新の研究成果を基に、日本及びアジア諸地域の歴史・伝統文化の理解の促進に寄与する展示を実施し、国内外からの来館者の増加を図る。

なお、京都国立博物館においては、耐震化を図るための平常展示館建て替え終了後、国際文化観光都市・京都において京都文化発信の核となる博物館を目指した平常展を平成26年度までに開催する。

①-2 展示に関する説明を一層充実させることに努め、作品キャプションについては全てに英語訳を付すとともに、展示テーマ毎にその時代背景等を説明した外国語パネル等を80%以上設置する。

② 特別展等については、国内外の博物館と連携した我が国の中核的拠点にふさわしい質の高い展示を行う。また、積年の研究成果の発表や時機に合わせた展示を企画し、国民の知的好奇心を刺激する展示を実施する。

特別展の来館者数については、展示内容・展覧環境を踏まえた目標を設定し、その達成に努める。なお、展覧会来館者の満足度を常に把握し改善を図る。特別展等の開催回数は概ね以下のとおりとする。

(東京国立博物館) 年3～4回程度

(京都国立博物館) 年2～3回程度

(奈良国立博物館) 年2～3回程度

(九州国立博物館) 年2～3回程度

③ 海外からの要請等に応じて、海外において展覧会等を行うことにより、日本の優れた文化財をもとにした歴史と伝統文化を紹介する。

(2) 教育活動の充実

日本及びアジア諸地域の歴史・伝統文化の理解促進に寄与するよう、機構の人的資源・物的資源・情報資源を活用した教育活動を実施する。

① 学校、社会教育関係団体、国内外の博物館等と連携協力しながら、講演会、作品解説、スクールプログラム、ワークショップ等の学習機会を提供する。また、参加者数についてはその都度、目標を設定する。

- ② 教育活動の充実に寄与するようボランティアを支援する。また、企業との連携や友の会活動の活性化に等により博物館支援者の増加を図る。
- ③ 大学との連携事業、各種セミナー、インターンシップ等の実施を通じて人材育成に寄与する。
- (3) 快適な観覧環境の提供

国民に親しまれる施設を目指し、来館者の立場に立った観覧環境の整備や利用者の要望を踏まえた管理運営を行う。

 - ① 施設のバリアフリー化、各種案内の充実、研修等の実施等を通じて、高齢者、障がい者、外国人等の利用にも配慮した快適な観覧環境の提供を行う。
 - ② 一般来館者を対象とする満足度調査及び専門家からの批評聴取等を定期的実施する。調査結果から来館者のニーズを把握し、観覧料金及び開館時間の弾力化などの管理運営の改善を行う。また、施設の収容力に応じた来館者数を確保するとともに、混雑時の対応を含め利用者に配慮した運営を行う。
 - ③ ミュージアムショップやレストラン等のサービスについては利用者の意見を収集し、改善する。
- (4) 文化財情報の発信と広報の充実
 - ① 収蔵品等の文化財その他関連する資料の情報について、永く後世に記録を残すために、データ整備及びデジタル化を推進する。また、整備したデータを公開するウェブサイトなどの公開システムの充実を行う。公開データの件数は継続的に増加させる。

収蔵品等に関するデジタル化件数は、その都度目標を設定する。
 - ② 美術史・考古学・博物館学その他の関連諸学に関する基礎資料及び国内外の博物館等に関する情報及び資料について広く収集し、蓄積するとともに、情報の発信と、レファレンス機能を充実させる。
 - ③ 展示や教育事業等について、個々の企画の目的、対象、内容、学術的な意義を踏まえて広報計画を策定し、情報提供を行う。
 - ④ 広報印刷物やウェブサイト等の自主媒体の活用及びマスメディアとの連携強化等により、積極的な広報を行う。
 - ⑤ ウェブサイトアクセス件数のカウントの統一を図り、アクセス件数の向上を図る。

実績

(1) 展覧事業の充実

展覧事業については、毎年自己点検評価を行い、改善に取り組んだ。また、日本及びアジア諸地域の歴史・伝統文化に関する平常展や特別展等を国内のみならず海外でも実施した。概要は以下のとおり。

① 平常展等

- ・ 今中期計画期間を通じて、来館者数を大幅に増やした。(下記推移参照)
- ・ 前中期計画期間から工事を行っていた、新平常展示館「平成知新館」を26年9月に開館した。(京博)
- ・ 東洋館を25年1月に、黒田記念館を27年1月に、平成館考古展示室を27年10月にリニューアルオープンした。(東博)
- ・ なら仏像館のリニューアルを計画し、進めた。(28年4月完了)(奈良博)
- ・ 文化交流展示室を27年にリニューアルし、展示品とテーマの関連性をわかり易く改善した。(九博)
- ・ 定期的な陳列替を実施し、テーマ性を持った特集陳列等を随時開催し平常展の充実に努めた。(4館)

【平常展来館者数推移】(人)

	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	合計
東京国立博物館	324,597	416,430	484,429	587,528	747,944	2,560,928
京都国立博物館	—	—	—	265,791	207,225	473,016
奈良国立博物館	130,839	145,914	122,075	92,147	95,208	586,183
九州国立博物館	358,366	460,525	349,848	357,362	412,621	1,938,722
合計	813,802	1,022,869	956,352	1,302,828	1,462,998	5,558,849

※27年度の京都国立博物館の来館者数については庭園開放1,699人含む

【平常展陳列替件数推移】（件）

	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	合計
東京国立博物館	4,914	6,989	5,708	5,506	6,930	30,047
京都国立博物館	—	—	—	693	1,145	1,838
奈良国立博物館	481	465	130	208	286	1,570
九州国立博物館	1,373	1,195	1,157	1,027	1,513	6,265

【平常展陳列総件数推移】（件）

	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	合計
東京国立博物館	7,394	9,190	8,824	8,161	8,911	42,480
京都国立博物館	—	—	—	980	1,438	2,418
奈良国立博物館	1,092	814	632	675	620	3,833
九州国立博物館	2,417	2,416	2,750	1,904	2,628	12,115

【平常展外国語パネルの設置率推移】

	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
東京国立博物館	96%	97%	100%	100%	100%
京都国立博物館	—	—	—	100%	100%
奈良国立博物館	89%	100%	91%	100%	100%
九州国立博物館	94%	87%	85%	92%	92%

②特別展等

【特別展来館者数推移】（人）

	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	合計
東京国立博物館	1,431,993	1,139,264	837,859	1,326,115	1,246,564	5,981,795
京都国立博物館	239,767	234,540	148,429	273,343	446,111	1,342,190
奈良国立博物館	338,624	304,321	339,615	384,846	360,651	1,728,057
九州国立博物館	354,228	646,511	377,755	447,301	471,507	2,297,302
合計	2,364,612	2,324,636	1,703,658	2,431,605	2,524,833	11,349,344

【特別展開催回数推移】（回）

	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	合計
東京国立博物館	7(1)	9(2)	8(1)	8(1)	6(1)	38(6)
京都国立博物館	6(2)	5	3	2	3	19(2)
奈良国立博物館	3	3	3	3	4(1)	16(1)
九州国立博物館	5(1)	4	5(1)	5	4	23(2)
合計	21(4)	21(2)	19(2)	18(1)	17(2)	96(11)

※（ ）内は海外展及び別会場開催（内数）

【特別展等開催実績】

年度	博物館	名称	来館者数 （人）	目標来館 者数（人）
23	東京国立博物館	「写楽」	229,625	160,000
		「手塚治虫のブッタ展」	99,088	70,000
		「空海と密教美術」	550,399	240,000
		法然上人800回忌・親鸞上人750回忌 特別展「法然と親鸞 ゆかりの名宝」	212,150	108,000
		日中国交正常化40周年 東京国立博物館140周年 特別展「北京故宮博物院200選」	258,252	152,000
		「孫文と梅屋庄吉—100年前の中国と日本」	(28,780)	(20,350)

	京都国立博物館	特別展覧会「法然上人 800 回忌 法然－生涯と美術－」	92,929	50,000	
		特別展覧会「百獣の樂園－美術にすむ動物たち－」	35,259	20,000	
		特別展覧会「細川家の至宝－珠玉の永青文庫コレクション－」	106,536	50,000	
		特別展覧会「中国近代絵画と日本」	13,286	20,000	
	奈良国立博物館	「誕生！中国文明」	35,679	50,000	
		「天竺へ～三蔵法師 3 万キロの旅」	63,364	50,000	
		「第 63 回正倉院展」	239,581	180,000	
	九州国立博物館	「黄檗－OBAKU」	55,539	30,000	
		「よみがえる国宝－守り伝える日本の美」	118,528	40,000	
		「草原の王朝 契丹 - 美しき 3 人のプリンセス」	75,880	60,000	
		「細川家の至宝－珠玉の永青文庫コレクション」	113,290	70,000	
	24	東京国立博物館	「ボストン美術館 日本美術の至宝」	540,382	310,000
			「中国山水画の 20 世紀 中国美術館名品選」	18,415	40,000
「青山杉雨の眼と書」			51,327	80,000	
「出雲－聖地の至宝－」			137,646	55,000	
「中国 王朝の至宝」			141,507	250,000	
「飛驒の円空－千光寺とその周辺の足跡－」			190,122	100,000	
「書聖 王羲之」			152,523	185,000	
京都国立博物館		特別展覧会「王朝文化の華－陽明文庫名宝展－」	101,006	30,000	
		特別展覧会「古事記 1300 年 出雲大社大遷宮 大出雲展」	79,218	50,000	
		特別展覧会「宸翰 天皇の書－御手(みて)が織りなす至高の美－」	24,699	20,000	
		特別展覧会「国宝 十二天像と密教法会の世界」	25,216	20,000	
		特集陳列「成立 800 年記念 方丈記」			
奈良国立博物館		「解脱上人貞慶－鎌倉仏教の本流－」	24,317	30,000	
		「頼朝と重源－東大寺再興を支えた鎌倉と奈良の絆－」	41,985	50,000	
		「第 64 回正倉院展」	238,019	180,000	
九州国立博物館		「平山郁夫 シルクロードの軌跡」	110,047	50,000	
		「美のワンダーランド 十五人の京絵師」	75,415	60,000	
		「ベルリン国立美術館展」	224,324	100,000	
		「ボストン美術館 日本美術の至宝」	236,725	60,000	
25		東京国立博物館	「国宝 大神社展」	193,990	250,000
			「和様の書」	104,577	130,000
			「京都－洛中洛外図と障壁画の美」	278,801	250,000
			「上海博物館 中国絵画の至宝」	62,378	45,000
			「クリーブランド美術館展－名画でたどる日本の美」	104,865	120,000
	「人間国宝展－生み出された美、伝えゆくわざ－」		112,960	120,000	
	「支倉常長像と南蛮美術－400 年前の日欧交流－」		※ (53,342)	－	
	京都国立博物館	「狩野山楽・山雪」	90,242	100,000	
		「遊び」	23,659	35,000	
		「魅惑の清朝陶磁」	38,929	35,000	
	奈良国立博物館	「當麻寺－極楽浄土へのあこがれ－」	54,114	40,000	
		「みほとけのかたち－仏像に会う－」	39,232	50,000	
		「第 65 回正倉院展」	246,269	180,000	

	九州国立博物館	「大ベトナム展」	71,192	30,000	
		「中国 王朝の至宝」	77,554	50,000	
		「尾張徳川家の至宝」	139,448	50,000	
		「国宝 大神社展」	89,561	70,000	
26	東京国立博物館	「栄西と建仁寺」	252,116	200,000	
		「キトラ古墳壁画」	119,268	87,000	
		「台北 国立故宮博物院—神品至宝—」	402,241	450,000	
		「東アジアの華 陶磁名品展」	65,075	34,000	
		「日本国宝展」	386,708	350,000	
		「みちのくの仏像」	179,521	140,000	
		「3.11 大津波と文化財の再生」	※(78,615)	—	
	京都国立博物館	「南山城の古寺巡礼」	69,443	50,000	
		「国宝 鳥獣戯画と高山寺」	203,900	100,000	
	奈良国立博物館	「武家のみやこ 鎌倉の仏像 —迫真とエキゾチシズム—」	37,022	50,000	
		「国宝 醍醐寺のすべて —密教のほとけと聖教—」	78,476	50,000	
		「第66回正倉院展」	269,348	180,000	
	九州国立博物館	「近衛家の国宝 京都・陽明文庫」	60,808	70,000	
		「クリーブランド美術館展—名画でたどる日本の美—」	70,794	50,000	
		「台北 国立故宮博物院—神品至宝—」	256,070	150,000	
		「古代日本と百済の交流 —大宰府・飛鳥そして公州・扶餘—」「発掘された日本列島 2014」	59,629	30,000	
	27	東京国立博物館	コルカタ・インド博物館所蔵 インドの仏—仏教美術の源流	97,300	60,000
			「鳥獣戯画—京都 高山寺の至宝」	239,115	180,000
			「クレオパトラとエジプトの王妃展」	267,959	180,000
			THE ART OF BVLGARI. 130YEARS OF MASTERPIECES アート オブ ブルガリ 130年にわたる美の至宝	142,000	35,000
「始皇帝と大兵馬俑」			483,809	230,000	
京都国立博物館		「桃山時代の狩野派—永徳の後継者たち—」	118,186	80,000	
		特別展観 第100回大蔵会記念 仏法東漸—仏教の典籍と美術—	34,696	31,000	
		琳派誕生四〇〇年記念 特別展覧会「琳派 京を彩る」	327,925	120,000	
奈良国立博物館		特別展「まぼろしの久能寺経に会う 平安古経展」	10,561	25,000	
		開館120年記念特別展「白鳳—花ひらく仏教美術—」	128,901	50,000	
		特別展 第67回正倉院展(予定)	221,189	180,000	
九州国立博物館		九州国立博物館開館10周年記念特別展「戦国大名—九州の群雄とアジアの波濤—」	77,455	50,000	
		九州国立博物館開館10周年記念特別展「大英博物館展 —100のモノが語る世界の歴史— A History of the World in 100 Objects」	133,174	70,000	
		九州国立博物館開館10周年記念特別展「美の国日本」	160,753	150,000	
		九州国立博物館開館10周年記念特別展「黄金のアフガニスタン—守りぬかれたシルクロードの秘宝—」	67,641	40,000	

※この特別展は会場が平常展の一部で別途カウントを行っていない。(開催期間中の平常展来館者数を参考値で計上)

③海外展等

【海外展等開催実績】

年度	博物館	名称	来館者数 (人)
23	東京国立博物館	開館5周年記念特別展「東京国立博物館所蔵 金春座伝来 能面・能装束」(会場：金沢能楽美術館)	8,206
	京都国立博物館	京都国立博物館名品展京都千年の美系譜 - 祈りと風景(会場：静岡県立美術館)	24,070
		京都国立博物館所蔵 典雅なる御装束 - 宮廷のオートクチュール - (細見美術館)	12,023
	九州国立博物館	文化庁海外展「日本 仏教美術 - 琵琶湖周辺の仏教信仰」	52,316
24	東京国立博物館	海外展「仏教美術と宮廷の美」(アメリカ・ヒューストン美術館)	18,629
		海外展「天下一の翡翠色を持つ青磁」(韓国・国立中央博物館)	43,800
25	東京国立博物館	海外展「青山杉雨のコレクションと書」(中華人民共和国・上海博物館)	364,298
	九州国立博物館	文化庁主催海外展「日本文化展」(ベトナム・ベトナム歴史国立歴史博物館)	約30,000
26	東京国立博物館	海外展「伝統の再創造：東京国立博物館所蔵 日本の近代美術」(アメリカ・クリーブランド美術館)	37,648
27	東京国立博物館	海外展「Ink and Gold; Art of Kano (狩野派展)」	77,214
	奈良国立博物館	日韓修好50周年記念特別展「日本の古墳」展	87,662

(2) 教育活動の充実

①学習機会の提供

特別展・平常展に関連した講演会・ギャラリートーク等のほか、ファミリー向けプログラムや小中学生向けワークショップなど、幅広い層に楽しむ機会を提供した。

- ・「アジアの占い体験」等の体験型プログラムや、レプリカに触れるハンズオンコーナー(東博)、訪問授業「文化財に親しむ授業」(京博)、世界遺産学習事業(奈博)、学校貸出キット「きゅうぱっく」の提供(九博)等を継続的に実施した。

【講演会、ギャラリートークの参加者数推移】(人)

	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
東京国立博物館	12,664	13,193	15,777	14,419	18,080
京都国立博物館	1,450	3,150	2,062	4,596	4,845
奈良国立博物館	3,006	3,454	3,219	3,525	3,974
九州国立博物館	7,833	8,354	7,276	4,694	6,212
合計	24,953	28,151	28,334	27,234	33,111

②ボランティア活動の支援

各館でボランティアの自主企画等を支援した。

【ボランティア受入れ数推移】(人)

	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
東京国立博物館	169	170	169	173	173
京都国立博物館	64	45	45	210	214
奈良国立博物館	87	121	114	110	157
九州国立博物館	355	308	287	352	352
合計	675	644	615	845	896

③大学との連携

- ・インターンシップ事業を継続して実施した。(東博・奈良博・九博)。また、博物館実習の受け入れ(九博)や大学への客員教授等の派遣(京博・奈良博)を行った。

【キャンパスメンバーズ加入校推移】(件)

	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
東京国立博物館	37	38	43	44	48
京都国立博物館	30	30	29	29	29
奈良国立博物館	28	27	26	27	27
九州国立博物館	28	24	24	24	25
合計	123	119	122	124	129

④博物館支援者の増加

各種会員制度によるリピーターの拡大、及び支援者の増加に努めた。

- ・企業の協力による障がい者内覧会（東博）や広報協力（京博・奈良博・九博）を実施し、博物館の認知度向上につなげた。

【賛助会加入件数推移】(件)

	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
東京国立博物館	292	332	379	414	464
京都国立博物館	375	353	336	351	368
奈良国立博物館	65	68	70	73	74
合計	732	753	785	838	906

【友の会・パスポート加入数推移】(人)

		23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
東京国立博物館	友の会	1,802	1,570	1,586	2,145	2,041
	パスポート	17,672	16,569	16,474	20,302	18,157
	ベーシック	—	—	—	1,038	2,789
	小計	19,474	18,139	18,060	23,485	22,987
京都国立博物館	友の会	2,667	3,064	2,295	6,522	7,108
奈良国立博物館	友の会	2,615	2,486	2,598	3,162	3,591
九州国立博物館	友の会	117	196	141	192	206
	パスポート	3,093	4,224	4,633	4,990	5,571
	小計	3,210	4,420	4,774	5,182	5,777
合計		27,966	28,109	27,727	38,351	39,463

(3) 快適な観覧環境の提供

施設のバリアフリー化、各種案内の充実等により、高齢者、障がい者、外国人等の利用に配慮した快適な観覧環境を提供した。主な整備状況は以下のとおり。

- ・24年度に、東洋館と本館のショップをリニューアルオープンした。(東博)
- ・25年度に黒田記念館と表慶館のバリアフリー化工事を実施(東博)、また「ほじょ犬」専用トイレを設置した。(九博)
- ・26年度に開館した平成知新館はバリアフリーに配慮した施設として設計・建築し、ミュージアムショップとレストランを設けた。(京博) 正門プラザと黒田記念館内に新たにミュージアムショップを設置した。(東博)
- ・27年度にミュージアムショップのリニューアルを実施した。また、太宰府天満宮の参道にアンテナショップを新設した。(九博)
- ・26年度から継続的に託児サービスを提供した(東博)。正倉院展の会期中に無料託児所を開設した(奈良博)。
- ・多言語(6~7言語)による案内パンフレットの製作・配布を行った(4館)。
- ・音声ガイドの貸出を行った。(4館)
- ・24年度からスマートフォンアプリ「トーハクナビ」(日・英)の提供を開始し、随時機能追加のバージョンアップを行った。ダウンロード件数も順調に伸びている。(東博)
- ・一部の特別展では、混雑緩和のため開館時館を延長した。(東博・九博)
- ・混雑対策として、入場待ち来館者向けのテントの設置(東博・京博・奈良博)、ウェブ等で混雑状況・待ち時間情報の提供等を行った(4館)。

(4) 文化財情報の発信と広報の充実

①文化財情報の蓄積と発信の充実

- ・デジタル化を推進し、収蔵品写真等の既存フィルムのデジタル化について、各館ごとに目標値を定めて実施し、可能なものから随時公開した。(4館) また、国宝・重要文化財の高精細画像(e国宝)を継続して公開した。また iOS、Android それぞれのアプリ版「e国宝」を継続して公開した。(4館)
- ・収蔵品・展覧会出品作品等の新規撮影を計画どおり実施して関連データを整備・蓄積し、また、図書資料等の収集を継続的に行い、レファレンスに供した。(4館)
- ・東京国立博物館資料館では、レファレンス機能とサービスの充実や導線の改善を行った結果、利用者数は中期計画期間中に継続して増加した。(東博)

【既存フィルムのデジタル化件数推移】(件)

	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
東京国立博物館	1,468	776	550,305	79	484
京都国立博物館	2,165	2,732	2,682	5,536	5,966
奈良国立博物館	5,297	4,924	7,615	5,154	3,875
九州国立博物館	2,146	1,450	62	776	—(完了済)

【新規撮影及び関連データ整備件数推移】(件)

	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
東京国立博物館	10,566	9,566	9,865	10,720	12,513
京都国立博物館	3,580	2,713	4,525	4,927	8,222
奈良国立博物館	6,103	4,960	4,648	5,478	4,237
九州国立博物館	4,441	2,142	1,512	1,167	1,090

②展示及び各種事業に関する、積極的な広報

- ・概要や年報(機構)、年間スケジュールのリーフレット、ポスター・チラシの作成・配布(4館)を計画的に行い、情報提供を行った。
- ・各種広報印刷物の発行、ウェブサイト・モバイルサイトによる情報提供、メールマガジンの配信、SNSの活用等を行うとともに、マスコミ媒体や公共交通機関等と連携した広報活動を展開した。
- ・ウェブサイトのリニューアルや内容の充実を行い、アクセス件数の向上を図った。また、スマートフォン対応のモバイルサイトを開発し、26年12月より公開した。(東博)

【ウェブサイトアクセス件数推移】(件)

	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
東京国立博物館	2,772,633	2,982,729	2,898,885	4,248,437	6,724,460
京都国立博物館	1,835,640	1,837,113	1,562,480	2,964,705	3,172,381
奈良国立博物館	722,249	845,202	893,553	1,196,669	1,112,057
九州国立博物館	1,150,408	2,078,279	1,209,272	1,827,152	2,217,391
e国宝	1,139,318	1,420,662	1,676,762	1,515,442	1,788,265

3 我が国における博物館の中核として博物館活動全体の活性化に寄与

中期目標

博物館の中核として我が国における博物館の先導的役割を果たすとともに、海外の博物館とも積極的に交流を図り、国内外の博物館活動全体の活性化に寄与する。

- (1) 収蔵品等に関する調査・研究の成果を多様な方法により積極的に公表し、広く博物館関係者の知見の向上に資すること。
- (2) 国内外の博物館関係者及び文化財とその活用に関する専門家と積極的に学術・人物交流等を行い、国際的な博物館の拠点となることを目指すこと。
- (3) 国内外の文化財の保存・修理に関する人材育成に寄与すること。
- (4) 国内外の博物館等の展覧事業の活性化を支援するため、収蔵品の貸与を実施すること。

- (5) 全国の博物館等の運営に対する援助、助言を行うとともに、博物館関係者の情報交換・人的ネットワークの形成等に努めること。

中期計画

3 我が国における博物館の中核として博物館活動全体の活性化に寄与

博物館の中核として我が国における博物館の先導的役割を果たすとともに、海外の博物館とも積極的に交流を図り、国内外の博物館活動全体の活性化に寄与するため、以下の事業を実施する。

- (1) 収蔵品等に関する調査・研究の成果を図版目録、研究紀要、学術雑誌並びに展覧会に関わる刊行物などで発表するとともに、こうした刊行物の電子書籍化及びインターネットでの公開を行う。
- (2) 文化財とその活用等に関する博物館活動について、先進的かつ有用な情報を集積するため、海外の優れた研究者を招聘し国際シンポジウムや研究会・共同調査等を実施する。また職員を海外の博物館・文化財研究所等の研究機関及び国際会議等に派遣する。
- (3) 保存科学、修理技術及び博物館関係者等を対象とした研修プログラムを関係機関と連携しながら検討、実施する。
- (4) 収蔵品については、その保存状況を勘案しつつ、公私立の博物館等の要請に対し、展示等の充実に寄与するため貸与を実施する。
- (5) 公私立博物館等に対する援助・助言を行うとともに、博物館関係者の情報交換・人的ネットワークの形成等を行う。

実績

(1) 収蔵品等の調査研究成果の公表

博物館における調査研究成果の発信として、図版目録や研究紀要、展覧会図録等の各種刊行物を継続的に発行した。主な取組みは以下のとおり。

①刊行物等

- ・研究誌（東博）
- ・研究紀要（4館）
- ・特別展等図録（4館）
- ・調査概報（東博）
- ・図版目録（東博）
- ・文化財修理報告書（東博・京博）
- ・社寺調査報告書（京博）

②ウェブサイト公開

- ・特集印刷物（リーフレット）PDFファイル版のウェブサイト公開（東博）
- ・研究紀要のPDFファイル版のウェブサイト公開（京博・奈良博）

(2) 専門家等との学術・人物交流

海外研究者の招へい、研究員の海外派遣を通して、海外の博物館・研究者との交流を行った。主な取組みは以下のとおり。

- ・国際シンポジウム、国際研究セミナー、国際研究集会、招聘者による講演会を実施した。（4館）
- ・26年度に第8回日中韓国立博物館長会議を開催した。（東博）
- ・23年度、25年度、27年度アジア国立博物館協会（ANMA）理事会・定期大会に参加した。（東博）
- ・学術交流協定に基づく研究員の交流を継続して行った。（東博、奈良博、九博）
- ・27年度にフランス国立ギメ東洋美術館と学術交流基本協定を締結した。（京博）

【海外研究者の招へい者数推移】（人）

	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	合計
東京国立博物館	16	11	21	47	83	178
京都国立博物館	21	3	0	2	2	28
奈良国立博物館	20	7	9	9	13	58
九州国立博物館	21	3	16	35	51	126
合計	78	24	46	93	149	390

【研究員派遣数推移】（人）

	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	合計
東京国立博物館	48	34	41	18	47	188
京都国立博物館	25	15	19	14	17	90
奈良国立博物館	19	17	8	13	20	77
九州国立博物館	56	60	87	82	77	362
合計	148	126	155	127	161	717

（3）文化財保存修理に関する人材育成

国内外の文化財の保存・修理に関する人材育成に寄与するため、NPOや文化財保存修理所内の工房との連携の下、保存修理事業者を対象とする研修会を、関係機関と連携協力して毎年度実施した。また、インターンシップの受け入れを行った。

（4）収蔵品の貸与

所蔵品・寄託品の貸与については、国内外の博物館等からの要請に対し、文化財の保存状況を見極めながら、積極的に対応した。なお、展示期間や会場の温湿度の設定、警備体制など貸与先の環境と作品の状態を確認した上で貸出を行っている。

【文化財の貸与件数（国内）推移】（件）

	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
東京国立博物館	905	1,295	1,137	1,130	910
京都国立博物館	429	304	626	582	293
奈良国立博物館	118	102	135	149	137
九州国立博物館	119	113	143	101	88
合計	1,571	1,814	2,041	1,962	1,428

【文化財の貸与先施設数（国内）推移】（件）

	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
東京国立博物館	129	159	123	115	123
京都国立博物館	74	71	82	82	75
奈良国立博物館	37	37	35	47	34
九州国立博物館	26	44	32	30	25
合計	266	311	272	274	257

（5）公私立博物館・美術館等に対する援助・助言

公私立の博物館・美術館等が開催する展覧会及び運営等に対し、援助・助言を行った。

【援助・助言件数推移】（件）

	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
東京国立博物館	126	85	114	119	139
京都国立博物館	91	65	43	29	65
奈良国立博物館	98	67	71	58	58
九州国立博物館	97	109	64	57	67
合計	412	326	292	263	329

当該実績件数は、文化財の調査や保存修理に関する援助・助言、講演会やセミナー等における講演等での協力、さらに、文化庁や地方公共団体等の文化財関係事業・会議への協力を含めたものである。（4館）なお、援助・助言の一環として東日本大震災の文化財レスキュー事業を行ない、放射能汚染立ち入り警戒区域での文化財救出作業を含む活動を行った。

4 文化財に関する調査及び研究の推進

中期目標

我が国唯一の文化財に関する総合的な研究機関として、文化財に関する以下の調査・研究を行い、貴重な文化財を次代へ継承していくために必要な知識・技術の基盤の形成に寄与すること。

- (1) 文化財の各分野に関する基礎的・体系的な調査・研究や、総合的な視点に基づく文化財の調査・研究手法の開発等を推進することにより、国及び地方公共団体における文化財保護施策の企画立案及び文化財の評価等に係る業務の基盤形成に寄与すること。

中期計画

4 文化財に関する調査及び研究の推進

貴重な文化財を次代へ継承していくために必要な知識・技術の基盤の形成に寄与するため、以下の調査・研究を行う。

- (1) 文化財に関する基礎的・体系的な調査・研究の推進

国内外の機関との共同研究や研究交流を含め、文化財に関する基礎的・体系的な調査・研究として、国内外の機関との共同研究や研究交流も含めて以下の課題に取り組み、国・地方公共団体における文化財保護施策の企画・立案、文化財の評価等に関する基盤の形成に寄与する。

- ①我が国の美術を中心とする有形文化財及びそれに係わる諸外国の文化財に関し調査・研究を実施する。
- ②我が国の歴史、文化の究明及び理解の促進等を図るため、歴史資料・書跡資料等に関する調査・研究を実施する。
- ③歴史的建造物の保存・活用の促進等を図るため、建造物及び伝統的建造物群に関する調査・研究を実施する。
- ④無形文化遺産の伝承・公開の基盤の形成等を図るため、無形文化財、無形民俗文化財、文化財保存技術に関する調査・研究を実施する。
- ⑤文化財の保存に加え、地域振興・国際的動向の観点も含めた活用の促進等を図るため、記念物に関する調査・研究を実施する。
- ⑥古代日本の都城の解明等を図るため、平城宮跡、藤原宮跡及び飛鳥地域における宮跡その他の遺跡に関する調査・研究を実施する。
- ⑦文化的景観の文化財としての概念の定着と保存・活用の促進等を図るため、文化的景観に関する調査・研究を実施する。
- ⑧遺物及び遺構の保存・活用の促進等を図るため、埋蔵文化財に関する調査・研究を実施する。

実績

- (1) 文化財に関する基礎的・体系的な調査・研究の推進

文化財の各分野に関する基礎的・体系的な調査・研究や、総合的な視点に基づく文化財の調査・研究手法の開発等を推進することにより、国及び地方公共団体における文化財保護施策の企画立案及び文化財の評価等に係る業務の基盤形成に寄与した。

【調査研究テーマ件数推移】(延べ件数)

	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	合計
東京文化財研究所	7	7	7	7	7	35
奈良文化財研究所	14	16	20	19	20	89
合計	21	23	27	26	27	124

【学術雑誌等への論文掲載数推移】(件)

	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	合計
東京文化財研究所	15	13	11	18	17	74
奈良文化財研究所	51	73	67	64	102	357
合計	66	86	78	82	119	431

【学会、研究会での発表件数推移】(件)

	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	合計
--	------	------	------	------	------	----

東京文化財研究所	21	22	21	24	22	110
奈良文化財研究所	32	36	45	22	56	191
合計	53	58	66	46	78	301

【調査研究テーマ一覧】

東京文化財研究所	
23 年度	文化財の研究情報の公開・活用のための総合的研究
	文化財の資料学的研究
	近現代美術に関する交流史的研究
	美術の表現・技法・材料に関する多角的研究
	無形文化財の保存・活用に関する調査研究
	無形民俗文化財の保存・活用に関する調査研究
	無形文化遺産分野の国際研究交流事業
24 年度	文化財の研究情報の公開・活用のための総合的研究
	文化財の資料学的研究
	近現代美術に関する交流史的研究
	美術の表現・技法・材料に関する多角的研究
	無形文化財の保存・活用に関する調査研究
	無形民俗文化財の保存・活用に関する調査研究
	無形文化遺産分野の国際研究交流事業
25 年度	文化財の研究情報の公開・活用のための総合的研究
	文化財の資料学的研究
	近現代美術に関する交流史的研究
	美術の表現・技法・材料に関する多角的研究
	無形文化財の保存・活用に関する調査研究
	無形民俗文化財の保存・活用に関する調査研究
	無形文化遺産分野の国際研究交流事業
26 年度	文化財の研究情報の公開・活用のための総合的研究
	文化財の資料学的研究
	近現代美術に関する交流史的研究
	美術の表現・技法・材料に関する多角的研究
	無形文化財の保存・活用に関する調査研究
	無形民俗文化財の保存・活用に関する調査研究
	無形文化遺産保護に関する研究交流・情報収集
27 年度	文化財の研究情報の公開・活用のための総合的研究
	文化財の資料学的研究
	近現代美術に関する交流史的研究
	美術の表現・技法・材料に関する多角的研究
	無形文化財の保存・活用に関する調査研究
	無形民俗文化財の保存・活用に関する調査研究
	無形文化遺産保護に関する研究交流・情報収集
奈良文化財研究所	
23 年度	近畿を中心とする古寺社等所蔵の歴史資料等に関する調査研究
	我が国の建造物及び伝統的建造物群に関する調査・研究
	我が国の記念物に関する調査・研究
	我が国の記念物に関する調査・研究
	東アジアにおける工芸技術及び飛鳥時代の建築遺物等の研究
	平城宮跡東院地区（第481次）の発掘調査

	古代官衙、集落遺跡等に関する研究集会の実施、報告書の刊行
	平城京跡出土遺物・遺構の調査研究等
	アジアにおける古代都城遺跡、生産遺跡、墓制及び陶磁器に関する中国、韓国との共同研究及びカザフスタンへの研究協力
	藤原宮跡朝堂院地区（第169次）の発掘調査
	甘樫丘東麓遺跡（第171次）の発掘調査
	飛鳥・藤原京跡出土遺物・遺構に関する調査研究等
	文化的景観及びその保存・活用に関する調査研究
	遺構の安定化方法を検討するための基礎データを収集
24年度	近畿を中心とする古寺社等所蔵の歴史資料等に関する調査研究
	我が国の建造物及び伝統的建造物群に関する調査・研究
	我が国の記念物に関する調査・研究（遺跡等整備）
	我が国の記念物に関する調査・研究（庭園及び国際研究交流）
	平城宮跡東院の発掘調査
	古代官衙、集落遺跡等に関する研究集会の実施、報告書の刊行
	藤原宮跡の発掘調査
	飛鳥地域発掘調査
	平城京跡出土遺物・遺構の調査研究等
	飛鳥・藤原京跡出土遺物・遺構に関する調査研究等
	東アジアにおける工芸技術及び飛鳥時代の建築遺物等の研究
	アジアにおける古代都城遺跡、生産遺跡、墓制及び陶磁器に関する中国、韓国との共同研究及びカザフスタンへの研究協力
	文化的景観及びその保存・活用に関する調査研究
	遺跡データベースの作成と公開
	出土遺物の材質構造調査、鉄製品及び木製品の埋蔵環境調査
	遺構の安定化方法を検討するための基礎データを収集
25年度	近畿を中心とする古寺社等所蔵の歴史資料等に関する調査研究
	我が国の建造物及び伝統的建造物群に関する調査・研究
	我が国の記念物に関する調査・研究（遺跡等整備）
	我が国の記念物に関する調査・研究（庭園）
	我が国の記念物に関する調査・研究（国際研究交流）
	平城宮跡第一次大極殿院の発掘調査
	平城京左京二条二坊十五坪の発掘調査
	平城京右京一条二坊四坪の発掘調査
	古代官衙、集落遺跡等に関する研究集会の実施、報告書の刊行
	古代瓦に関する研究集会の実施、報告書の刊行
	藤原宮跡の発掘調査
	飛鳥地域発掘調査
	平城宮・京跡の出土遺物と検出遺構の調査研究等
	飛鳥・藤原京跡出土遺物・遺構に関する調査研究等
	東アジアにおける工芸技術及び飛鳥時代の建築遺物等の研究
	アジアにおける古代都城遺跡、生産遺跡、墓制及び陶磁器に関する中国、韓国との共同研究及びカザフスタンへの研究協力
	文化的景観及びその保存・活用に関する調査研究
	遺跡データベースの作成と公開
	出土遺物の材質構造調査、鉄製品及び木製品の埋蔵環境調査
	遺構の安定化方法を検討するための基礎データを収集

26年度	近畿を中心とする古寺社等所蔵の歴史資料等に関する調査研究	
	我が国の建造物及び伝統的建造物群に関する調査・研究	
	我が国の記念物に関する調査・研究（遺跡等整備）	
	我が国の記念物に関する調査・研究（庭園）	
	我が国の記念物に関する調査・研究（国際研究交流）	
	平城京右京一条二坊一坪・二条二坊四坪・一条南大路の発掘調査	
	古代官衙、集落遺跡等に関する研究集会の実施、報告書の刊行	
	古代瓦に関する研究集会の実施、報告書の刊行	
	藤原宮跡の発掘調査（大極殿院）	
	藤原宮跡の発掘調査（東方官衙北地区）	
	飛鳥地域発掘調査	
	平城宮・京跡の出土遺物と検出遺構の調査研究等	
	飛鳥・藤原京跡出土遺物・遺構に関する調査研究等	
	東アジアにおける工芸技術及び飛鳥時代の建築遺物等の研究	
	アジアにおける古代都城遺跡、生産遺跡、墓制及び陶磁器に関する中国、韓国との共同研究及びカザフスタンへの研究協力	
	文化的景観及びその保存・活用に関する調査研究	
	遺跡データベースの作成と公開	
	出土遺物の材質構造調査、鉄製品及び木製品の埋蔵環境調査	
	遺構の安定化方法を検討するための基礎データを収集	
	27年度	近畿を中心とする古寺社等所蔵の歴史資料等に関する調査研究
		我が国の建造物及び伝統的建造物群に関する調査・研究
我が国の記念物に関する調査・研究（遺跡等整備）		
我が国の記念物に関する調査・研究（庭園）		
我が国の記念物に関する調査・研究（国際研究交流）		
平城京右京一条二坊四坪・一条南大路・西一坊大路の発掘調査		
平城宮第一次大極殿院内庭部の発掘調査		
東大寺東塔院跡の発掘調査		
古代官衙、集落遺跡等に関する研究集会の実施、報告書の刊行		
古代瓦に関する研究集会の実施、報告書の刊行		
藤原宮跡の発掘調査（大極殿院）		
飛鳥地域発掘調査		
平城宮・京跡の出土遺物と検出遺構の調査研究等		
飛鳥・藤原京跡出土遺物・遺構に関する調査研究等		
東アジアにおける工芸技術及び飛鳥時代の建築遺物等の研究		
アジアにおける古代都城遺跡、生産遺跡、墓制及び陶磁器に関する中国、韓国との共同研究		
文化的景観及びその保存・活用に関する調査研究		
遺跡データベースの作成と公開		
出土遺物の材質構造調査、鉄製品及び木製品の埋蔵環境調査		
遺構の安定化方法を検討するための基礎データ収集		

中期目標

（２）文化財の研究に関する調査手法の拡充と新たな技術開発を推進すること。

中期計画

(2) 文化財の研究に関する調査手法の研究・開発の推進

文化財の調査手法に関する研究・開発を推進し、文化財を生み出した文化的・歴史的・自然的環境等の背景やその変化の過程を明らかにすることに寄与する。

- ①文化財の現状及び経年変化等の記録や解析に応用するため、デジタル画像の形成方法等について研究・開発を実施する。
- ②遺跡調査の質的向上及び作業の効率化等を図るため、遺跡の調査手法に関する研究・開発を実施する。
- ③木造文化財の年代及び産地の特定等を図るため、年輪年代の調査手法に関する研究・開発を実施する。
- ④過去の生業活動の解明等を図るため、動植物遺存体等の調査手法に関する研究・開発を実施する。

実績

(2) 文化財の研究に関する調査手法の研究・開発の推進

文化財を生み出した文化的・歴史的・自然的環境等の背景やその変化の過程を明らかにすることに寄与するため、文化財の調査手法に関する研究・開発を推進した。

【調査研究テーマ件数推移】(延べ件数)

調査研究テーマ数	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	合計
東京文化財研究所	1	1	1	1	1	5
奈良文化財研究所	4	3	3	3	3	16
機構計	5	4	4	4	4	21

【学術雑誌等への論文掲載数推移】(件)

	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	合計
東京文化財研究所	2	0	0	1	0	3
奈良文化財研究所	31	24	14	20	11	100
合計	33	24	14	21	11	103

【学会、研究会での発表件数推移】(件)

	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	合計
東京文化財研究所	1	1	1	0	0	3
奈良文化財研究所	39	49	17	19	12	136
合計	40	50	18	19	12	139

【調査研究テーマ一覧】

東京文化財研究所	
23年度	文化財デジタル画像形成に関する調査研究
24年度	文化財デジタル画像形成に関する調査研究
25年度	文化財デジタル画像形成に関する調査研究
26年度	文化財デジタル画像形成に関する調査研究
27年度	文化財デジタル画像形成に関する調査研究
奈良文化財研究所	
23年度	遺跡データベースの作成と公開
	文化財の測量・探査等に関する研究
	年輪年代学研究
	動植物遺存体による環境考古学的研究
24年度	文化財の測量・探査等に関する研究
	年輪年代学研究
	動植物遺存体による環境考古学的研究
25年度	文化財の測量・探査等に関する研究
	年輪年代学研究
	動植物遺存体による環境考古学的研究
26年度	文化財の測量・探査等に関する研究
	年輪年代学研究

	動植物遺存体による環境考古学的研究
27年度	文化財の測量・探査等に関する研究
	年輪年代学研究
	動植物遺存体による環境考古学的研究

中期目標

(3) 最新の科学技術の活用による保存科学に関する先端的な調査・研究や、伝統的な修復技術、製作技法、利用技法に関する調査・研究を通じて、文化財の保存・修復に係る技術・技法や材料の開発・評価等を推進し、文化財の保存や修復の質的向上に寄与すること。

中期計画

(3) 科学技術の活用等による文化財の保存科学や修復技術に関する中核的な支援拠点として、先端的調査研究等の推進

最新の科学技術の活用による保存科学に関する先端的な調査及び研究や、伝統的な修復技術、製作技法、利用技法に関する以下の調査・研究に取り組むことにより、文化財の保存や修復の質的向上に寄与する。

- ①大規模燻蒸に替わるカビ対策のシステム化等を図るため、文化財における生物被害の予防と対策に関する調査・研究を実施する。
- ②文化財の状態の安定化等を図るため、文化財の保存環境に関する調査・研究を実施する。
- ③文化財の材質分析及び劣化診断の向上等を図るため、計測手法に関する調査・研究を実施する。
- ④屋外文化財の修復材料・技法に関する研究及び文化財の自然災害による被害軽減のため必要な調査・研究を実施する。
- ⑤文化財に用いられた伝統的な技法及び合成樹脂などの修復材料に関する研究を行い、成果を文化財修復や人材育成に活用する。
- ⑥近代文化遺産の保存のための修復材料及び技法の開発評価を行い、成果を保存修復に活用するとともに、海外研究機関との共同研究を推進する。

実績

(3) 科学技術の活用等による文化財の保存科学や修復技術に関する調査研究等

文化財の保存や修復の質的向上に寄与すべく、最新の科学技術の活用による保存科学に関する先端的な調査・研究や、伝統的な修復技術、製作技法、利用技法に関する調査・研究を行い、文化財の保存・修復に係る技術・技法や材料の開発・評価等を推進した。

【調査研究テーマ件数推移】(延べ件数)

調査研究テーマ数	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	合計
東京文化財研究所	10	8	10	9	9	46
奈良文化財研究所	2	1	1	1	1	6
機構計	12	9	11	10	10	52

【学術雑誌等への論文掲載数推移】(件)

調査研究テーマ数	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	合計
東京文化財研究所	18	14	14	18	15	79
奈良文化財研究所	5	2	3	3	2	15
合計	23	16	17	21	17	94

【学会、研究会での発表件数推移】(件)

調査研究テーマ数	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	合計
東京文化財研究所	18	17	23	20	31	109
奈良文化財研究所	12	2	3	0	0	17
合計	30	19	26	20	31	126

【調査研究テーマ一覧】

東京文化財研究所	
23 年度	文化財のカビ被害予防と対策のシステム化についての研究
	文化財の保存環境の研究
	文化財の材質及び劣化調査法に関する研究
	周辺環境が文化財に及ぼす影響評価とその対策に関する研究
	文化財の災害対策及び被災文化財の救援と保存修復手法に関する研究
	伝統的修復材料及び合成樹脂に関する調査研究
	国際研修「紙の保存と修復」
	在外日本古美術品保存修復協力事業
	近代の文化遺産の保存修復に関する研究
	文化庁が行う高松塚古墳・キトラ古墳の壁画の調査及び保存・活用に関する技術的協力
24 年度	文化財のカビ被害予防と対策のシステム化についての研究
	文化財の保存環境の研究
	文化財の材質及び劣化調査法に関する研究
	周辺環境が文化財に及ぼす影響評価とその対策に関する研究
	文化財の防災計画に関する研究
	伝統的修復材料及び合成樹脂に関する調査研究
	近代の文化遺産の保存修復に関する研究
	文化庁が行う高松塚古墳・キトラ古墳の壁画の調査及び保存・活用に関する技術的協力
	25 年度
文化財の保存環境の研究	
文化財の材質及び劣化調査法に関する研究	
周辺環境が文化財に及ぼす影響評価とその対策に関する研究	
文化財の防災計画に関する研究	
文化財の放射線対策に関する研究	
文化財における伝統技術及び材料に関する調査研究	
文化財修復材料の適用に関する調査研究	
近代の文化遺産の保存修復に関する研究	
文化庁が行う高松塚古墳・キトラ古墳の壁画の調査及び保存・活用に関する技術的協力	
26 年度	文化財のカビ被害予防と対策のシステム化についての研究
	文化財の保存環境の研究
	文化財の材質及び劣化調査法に関する研究
	周辺環境が文化財に及ぼす影響評価とその対策に関する研究
	文化財の防災計画に関する研究
	文化財における伝統技術及び材料に関する調査研究
	文化財修復材料の適用に関する調査研究
	近代の文化遺産の保存修復に関する研究
	文化庁が行う高松塚古墳・キトラ古墳の壁画の調査及び保存・活用に関する技術的協力
27 年度	文化財のカビ被害予防と対策のシステム化についての研究
	文化財の保存環境の研究
	文化財の材質及び劣化調査法に関する研究
	周辺環境が文化財に及ぼす影響評価とその対策に関する研究
	文化財の防災計画に関する研究
	文化財における伝統技術及び材料に関する調査研究
	文化財修復材料の適用に関する調査研究
	近代の文化遺産の保存修復に関する研究

	文化庁が行う高松塚古墳・キトラ古墳の壁画の調査及び保存・活用に関する技術的協力
奈良文化財研究所	
23年度	出土遺物の材質構造調査、鉄製品及び木製品の埋蔵環境調査 ミリ波イメージングにかかる基礎実験及び装置の改良等
24年度	ミリ波イメージングにかかる基礎実験及び装置の改良等
25年度	ミリ波イメージングにかかる基礎実験及び装置の改良等
26年度	ミリ波イメージングにかかる基礎実験及び装置の改良等
27年度	ミリ波イメージングにかかる基礎実験及び装置の改良等

中期目標

(4) 国や地方公共団体の要請に応じて、我が国の文化財保護政策上重要かつ緊急性の高い文化財の保存・修復に係る実践的な調査・研究を実施すること。

中期計画

(4) 高松塚古墳、キトラ古墳の保存対策事業等、我が国の文化財保護政策上重要かつ緊急に保存及び修復の措置等を行うことが必要となった文化財について、国・地方公共団体の要請に応じて、保存措置等のために必要な実践的な調査・研究を迅速かつ適切に実施する。

実績

(4) 高松塚古墳、キトラ古墳の保存対策事業等、国・地方公共団体の要請に応じて、保存措置等のために必要な実践的な調査・研究

高松塚古墳、キトラ古墳の保存対策事業等、我が国の文化財保護政策上重要かつ緊急に保存及び修復の措置等を行うことが必要となった文化財について、文化庁、国土交通省の要請に応じて、保存措置等のために必要な調査・研究を迅速かつ適切に実施した。

【調査研究テーマ件数推移】(延べ件数)

調査研究テーマ数	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	合計
奈良文化財研究所	6	5	7	6	6	30
合計	6	5	7	6	6	30

【学術雑誌等への論文掲載数推移】(件)

	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	合計
奈良文化財研究所	7	4	13	3	22	49
合計	7	4	13	3	22	49

【学会、研究会での発表件数推移】(件)

	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	合計
奈良文化財研究所	2	2	3	4	9	20
合計	2	2	3	4	9	20

【調査研究テーマ一覧】

東京文化財研究所	
23年度	文化庁が行う高松塚古墳・キトラ古墳の壁画の調査及び保存・活用に関する技術的協力
24年度	文化庁が行う高松塚古墳・キトラ古墳の壁画の調査及び保存・活用に関する技術的協力
25年度	文化庁が行う高松塚古墳・キトラ古墳の壁画の調査及び保存・活用に関する技術的協力
26年度	文化庁が行う高松塚古墳・キトラ古墳の壁画の調査及び保存・活用に関する技術的協力
27年度	文化庁が行う高松塚古墳・キトラ古墳の壁画の調査及び保存・活用に関する技術的協力
※以上の研究テーマは「(3) 科学技術の活用等による文化財の保存科学や修復技術に関する調査研究等」においても記載しているため本項目では件数として計上しない。	
奈良文化財研究所	
23年度	文化庁が行う高松塚古墳・キトラ古墳の壁画の調査及び保存・活用に関する技術的協力

	国土交通省が行う国営飛鳥歴史公園キトラ古墳周辺地区公園予定地の調査及び保存活用に関する技術的協力
	農林水産省が行う大和紀伊平野土地改良事業大和平野県営飛鳥工区2号幹線の調査及び保存活用に関する技術的協力
	国土交通省が行う国営飛鳥歴史公園キトラ古墳周辺地区公園予定地内の体験学習館の建設への協力
	国土交通省が行う平城宮跡展示館（仮称）の建設への協力
	国土交通省が行う平城宮跡第一次大極殿院復原への協力
24年度	文化庁が行う高松塚古墳・キトラ古墳の壁画の調査及び保存・活用に関する技術的協力
	農林水産省が行う大和紀伊平野土地改良事業大和平野県営飛鳥工区2号幹線の調査及び保存活用に関する技術的協力
	国土交通省が行う国営飛鳥歴史公園キトラ古墳周辺地区公園予定地内の体験学習館の建設への協力
	国土交通省が行う平城宮跡展示館（仮称）の建設への協力
	文化庁・国土交通省が行う平城宮跡の復原・整備への協力
25年度	文化庁が行う高松塚古墳・キトラ古墳の壁画の調査及び保存・活用に関する技術的協力
	国土交通省が行う国営飛鳥歴史公園キトラ古墳周辺地区公園予定地の調査及び保存・活用に関する技術的に協力
	農林水産省が行う大和紀伊平野土地改良事業大和平野県営飛鳥工区2号幹線の調査及び保存活用に関する技術的協力
	文化庁・国土交通省が行う平城宮跡の復原・整備への協力
	国土交通省が行う国営飛鳥歴史公園キトラ古墳周辺地区公園予定地内の体験学習館の建設への協力
	国土交通省が行う平城宮跡展示館（仮称）の建設への協力
	東日本大震災の復旧・復興事業に伴う埋蔵文化財発掘調査に対する地方公共団体等への支援・協力
26年度	文化庁が行う高松塚古墳・キトラ古墳の壁画の調査及び保存・活用に関する技術的協力
	国土交通省が行う国営飛鳥歴史公園キトラ古墳周辺地区公園予定地の調査及び保存・活用に関する技術的に協力
	文化庁・国土交通省が行う平城宮跡の復原・整備への協力
	国土交通省が行う国営飛鳥歴史公園キトラ古墳周辺地区公園予定地内の体験学習館の建設への協力
	国土交通省が行う平城宮跡展示館（仮称）の建設への協力
	東日本大震災の復旧・復興事業に伴う埋蔵文化財発掘調査に対する地方公共団体等への支援・協力
27年度	文化庁が行う高松塚古墳・キトラ古墳の壁画の調査及び保存・活用に関する技術的協力
	国土交通省が行う国営飛鳥歴史公園キトラ古墳周辺地区公園予定地の調査及び保存・活用に関する技術的協力
	文化庁・国土交通省が行う平城宮跡の復原・整備への協力
	国土交通省が行う国営飛鳥歴史公園キトラ古墳周辺地区公園予定地内の体験学習館の建設への協力
	国土交通省が行う平城宮跡展示館（仮称）の建設への協力
	東日本大震災の復旧・復興事業に伴う埋蔵文化財発掘調査に対する地方公共団体等への支援・協力

中期目標

(5) 有形文化財の収集・保存・管理・展示・教育活動等に必要な調査・研究を計画的に実施すること。

中期計画

(5) 有形文化財の収集・保存・管理・展示・教育活動等にかかる調査・研究有形文化財の収集・保存・管理・展示・教育活動等にかかる調査・研究を実施し、その保存と活用を推進することにより、次世代への継承及び我が国文化の向上に寄与する。

- ①適切な作品の収集・修理計画を立て、分かりやすい効果的な展示など、有形文化財の保存と活用を促進するため、所蔵品・寄託品の基礎的かつ総合的な調査を行う。
- ②日本の文化財及び日本の文化に影響を与えたアジア諸地域の有形文化財に関する基礎的かつ総合的な調査・研究を行う。
- ③平安時代から江戸時代までの京都文化を中心とした有形文化財の基礎的かつ総合的な調査・研究を行う。
- ④仏教美術及び奈良を中心とした有形文化財の基礎的かつ総合的な調査・研究を行う。
- ⑤アジアを中心に世界との交流という観点から捉えた、日本文化に関する調査・研究を行う。
- ⑥有形文化財の保存と活用の向上を図るため、有形文化財の保存環境・保存修復に関する調査・研究を行う。
- ⑦有形文化財の次世代への継承に寄与するため、文化財を活用した効果的な展示や、歴史・伝統文化の理解促進に資する教育活動等に関する調査・研究を行う。

実績

(5) 有形文化財の収集・保存・管理・展示・教育活動等にかかる調査・研究有形文化財の収集・保存・管理・展示・教育活動等にかかる調査・研究

有形文化財の収集・保存・管理・展示・教育活動等に必要な調査・研究を計画的に実施した。各博物館とも、日常の調査研究の成果を特別展や特集陳列などの展示に結びつけている。

【調査研究テーマ件数推移】(延べ件数)

	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	合計
東京国立博物館	39	45	67	71	66	288
京都国立博物館	12	20	15	18	17	82
奈良国立博物館	13	13	17	18	18	79
九州国立博物館	24	27	39	38	31	159
合計	88	105	138	145	132	608

【学術雑誌等への論文掲載数推移】(件)

	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	合計
東京国立博物館	91	92	134	126	116	559
京都国立博物館	72	60	30	34	34	230
奈良国立博物館	29	31	22	22	27	131
九州国立博物館	48	35	21	24	20	148
合計	240	218	207	206	197	1,068

【学会、研究会での発表件数推移】(件)

	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	合計
東京国立博物館	72	65	76	104	102	419
京都国立博物館	18	32	10	25	16	101
奈良国立博物館	16	32	21	39	51	159
九州国立博物館	43	76	35	23	34	211
合計	149	205	142	191	203	890

【調査研究テーマ一覧】

東京国立博物館	
23年度	収蔵品・寄託品及び関連品に関する調査研究
	特別調査法隆寺献納宝物(第33次)「聖徳太子絵伝」第7回

	特別調査「書跡」第9回
	特別調査「工芸」第3回
	特別調査「彫刻」第1回
	特別調査「金地屏風の金箔地についての調査研究」—尾形光琳風神雷神屏風を中心に板谷家を中心とした江戸幕府御用絵師に関する総合的研究（科学研究費補助金）
	油彩画の材料・技法に関する共同調査
	目録学の構築と古典学の再生に関する調査研究（科学研究費補助金）
	文化財保護の歴史に関する基礎的研究（科学研究費補助金）
	占領期の教育政策における国立博物館の役割に関する調査研究（科学研究費補助金）
	宮廷工芸に関する物質文化的研究（科学研究費補助金）
	日本近世実景図研究
	光学的調査に基づく高雄曼荼羅の発展的研究（科学研究費補助金）
	古筆切紙背の史料学的研究（学術研究助成基金助成金）
	家形埴輪の群構成と階層性からみた東アジアにおける古墳葬送儀礼に関する基礎的研究（学術研究助成基金助成金）
	近現代における古日本染織の移動とコレクション形成に関する基礎的研究（科学研究費補助金）
	絵巻の〈伝来〉をめぐる総合的研究（科学研究費補助金）
	狩野晴川院養信による寺社宝物摸本の基礎的研究（学術研究助成基金助成金）
	黒耀石の獲得と消費からみた完新世初期人類社会の形成過程（学術研究助成基金助成金）
	東京国立博物館所蔵国際交流史料データベース（科学研究費補助金・研究成果公開促進費）
	隋唐時代の仏舎利信仰と荘厳に関する総合的調査研究（科学研究費補助金）
	諸先学の作品調書・画像資料類の保存と活用のための研究・開発（科学研究費補助金）
	絵巻に描かれた「場」と「もの」に見る中世日本の重層的な世界観に関する研究（科学研究費補助金）
	南宋絵画史における仏画の位相—都と地域、中国と周縁—（科学研究費補助金）
	アジアの木地螺鈿—その源流、正倉院宝物への道をたどる—（科学研究費補助金）
	草創期の磁器における『和様化』の背景について（メトロポリタン東洋美術研究センター研究助成金）
	古筆切の発生とその鑑賞に関する基礎的研究（メトロポリタン東洋美術研究センター助成金）
	高雄曼荼羅の調査研究（メトロポリタン東洋美術研究センター研究助成金）
	館蔵の漢籍・洋書に関する基礎的研究
	東洋民族資料に関する調査研究
	東アジアの書道史における料紙と書風に関する総合的研究（科学研究費補助金）
	中国書画の表装に関する基礎的研究（科学研究費補助金）
	博物館の環境保存に関する研究
	博物館における文化遺産の保全と持続的公開を目指した包括的保存システムの研究（科学研究費補助金）
	博物館環境デザインに関する調査研究
	博物館美術教育に関する調査研究
	博物館資料・業務の情報処理に関する調査研究
	凸版印刷と共同で、ミュージアム・シアターでの公開に向けた研究
24年度	収藏品・寄託品及び関連品に関する調査研究
	特別調査法隆寺献納宝物（第34次）「聖徳太子絵伝」第8回
	特別調査「書跡」第10回
	特別調査「工芸」第4回
	特別調査「彫刻」第2回

特別調査「金地屏風の金箔地についての調査研究」—尾形光琳風神雷神屏風を中心に
油彩画の材料・技法に関する共同調査
名物裂を用いた表装裂の復元に関する共同研究
漆塗籠棺残片の保存に関する共同研究
板谷家を中心とした江戸幕府御用絵師に関する総合的研究（科学研究費補助金）
文化財保護の歴史に関する基礎的研究（科学研究費補助金）
占領期の教育政策における国立博物館の役割に関する調査研究（科学研究費補助金）
宮廷工芸に関する物質文化的研究（科学研究費補助金）
古筆切紙背の史料学的研究（科学研究費補助金）
家形埴輪の群構成と階層性からみた東アジアにおける古墳葬送儀礼に関する基礎的研究（学術研究助成基金助成金）
絵巻の〈伝来〉をめぐる総合的研究（科学研究費補助金）
近現代における古日本染織の移動とコレクション形成に関する基礎的研究（科学研究費補助金）
狩野晴川院養信による寺社宝物摸本の基礎的研究（学術研究助成基金助成金）
創立 150 周年へ向けた館史編纂のための基礎的な資料整理と調査
中世聖徳太子絵伝展開に関する調査研究（科学研究費補助金）
寄贈品に見る草創期の博物館におけるコレクション形成と美術品の移動（学術研究助成基金助成金）
武家女性の衣生活に関する基礎的研究（学術研究助成基金助成金）
縄文時代における浅鉢形土器の研究（学術研究助成基金助成金）
刀装具—派後藤家の鑑定 極帳（鑑定控）の整理に基づく鑑定の様相と価値付けの考察（科学研究費補助金・学術研究助成基金助成金）
視覚表現とコレクションの形成に見る縄文土器の美術的受容に関する研究（科学研究費補助金）
諸先学の作品調書・画像資料類の保存と活用のための研究・開発（科学研究費補助金）
絵巻に描かれた「場」と「もの」に見る中世日本の重層的な世界観に関する研究（科学研究費補助金）
描いた女性たちに関する研究—桃山時代から明治・大正期まで（科学研究費補助金）
日本とドイツの美術解剖学教育の発展と展開（科学研究費補助金）
館蔵の漢籍・洋書に関する基礎的研究
東洋民族資料に関する調査研究
東アジアの書道史における料紙と書風に関する総合的研究（科学研究費補助金）
中国書画の表装に関する基礎的研究（科学研究費補助金）
光学的調査に基づく高雄曼荼羅の発展的研究（科学研究費補助金）
仁寿舍利塔の信仰と荘厳に関する総合的調査研究（科学研究費補助金）
南宋絵画史における仏画の位相—都と地域、中国と周縁—
東アジアにおける木彫像の樹種と用材観に関する調査研究（科学研究費補助金）
唐宋時代の越州窯青磁、碗類の器形の変遷について（茶道文化学術助成金）
博物館の環境保存に関する研究
博物館における文化遺産の保全と持続的公開を目指した包括的保存システムの研究（科学研究費補助金）
博物館環境デザインに関する調査研究
博物館美術教育に関する調査研究
博物館資料・業務の情報処理に関する調査研究
凸版印刷と協同で、ミュージアム・シアターでの公開に向けた研究
文化財管理における美術品用語辞典の作成（科学研究費補助金）

25 年度	収蔵品・寄託品及び関連品に関する調査研究
	特別調査法隆寺献納宝物（第 35 次）「金工品」
	特別調査「書跡」第 1 1 回
	特別調査「工芸」第 5 回
	特別調査「彫刻」第 3 回
	特別調査 屏風の箔地についての光学的調査研究
	油彩画の材料・技法に関する共同調査
	漆塗籠棺残片の保存に関する共同研究
	東京国立博物館所蔵仏教絵画の高精細画像による共同調査
	板谷家を中心とした江戸幕府御用絵師に関する総合的研究（科学研究費補助金）
	中世聖徳太子絵伝の図像展開に関する調査研究（科学研究費補助金）
	光学的調査に基づく高雄曼荼羅の研究（科学研究費補助金）
	古筆切紙背の史料学的研究（学術研究助成基金助成金）
	家形埴輪の群構成と階層性からみた東アジアにおける古墳葬送儀礼に関する基礎的研究（学術研究助成基金助成金）
	絵巻の〈伝来〉をめぐる総合的研究（科学研究費補助金）
	刀装具一派後藤家の鑑定 極帳（鑑定控）の整理に基づく鑑定の様相と価値付けの考察（科学研究費補助金・学術研究助成基金助成金）
	近現代における古日本染織の移動とコレクション形成に関する基礎的研究（科学研究費補助金）
	寄贈品に見る草創期の博物館におけるコレクション形成と美術品の移動に関する研究（学術研究助成基金助成金）
	武家女性の衣生活に関する基礎的研究（学術研究助成基金助成金）
	縄文時代における浅鉢形土器の研究（学術研究助成基金助成金）
	創立 150 年へ向けた館史編纂のための基礎的な資料整理と調査研究
	東日本大震災による被災文化財の保存修復と文化財の防災に関する研究
	博物館における国際的な資料流通を素材とした明治期の文化交流史に関する基礎的研究（科学研究費補助金・学術研究助成基金助成金）
	中世から近代における日本絵画の受容環境の復元的考察（科学研究費補助金・学術研究助成基金助成金）
	模写資料における書の受容・鑑賞に関する基礎的研究（学術研究助成基金助成金）
	江戸幕府による自然史科学の萌芽と御用絵師の役割に関する研究（学術研究助成基金助成金）
	神像表現における物語性の研究（学術研究助成基金助成金）
	視覚表現とコレクションの形成に見る縄文土器の美術的受容に関する（科学研究費補助金）
	日本における「美術」概念の再構築—語彙と理論にまたがる総合的研究（科学研究費補助金）
	描いた女性たちに関する研究—桃山時代から明治・大正期まで（科学研究費補助金）
	武装具の集積現象と古墳時代中期社会の特質（科学研究費補助金・学術研究助成基金助成金）
	三次元計測を応用した青銅器製作技術からみた三角縁神獸鏡の総合的研究（科学研究費補助金・学術研究助成基金助成金）
	木彫像の樹種識別技術の高度化（科学研究費補助金）
在欧日本仏教美術の基礎的調査・研究とデータベース化による日本仏教美術の情報発信（科学研究費補助金）	
館蔵の漢籍・洋書に関する基礎的研究	
東洋民族資料に関する調査研究	
東アジアの書道史における料紙と書風に関する総合的研究（科学研究費補助金）	
東アジアにおける繡仏の基礎的研究（科学研究費補助金・学術研究助成基金助成金）	
極薄青銅器の製作技術解明—中国金属工芸史を再構築するための基盤研究（科学研究費補助金）	

	金・学術研究助成基金助成金)
	仁寿舍利塔の信仰と荘厳に関する総合的調査研究(科学研究費補助金)
	中国典籍日本古写本の研究(科学研究費補助金)
	5～9世紀東アジアの金銅仏に関する日韓共同研究(科学研究費補助金)
	東アジアにおける木彫像の樹種と用材観に関する調査研究(科学研究費補助金)
	古代イスラエルの墓制と他界観に関する総合的研究(科学研究費補助金)
	南宋絵画史における仏画の位相—都と地域、中国と周縁—(科学研究費補助金)
	海外展「青山杉雨のコレクションと書」に関する調査研究
	特別展「和様の書」に関する調査研究
	特別展「上海博物館 中国絵画の至宝」に関する調査研究
	特別展「京都—洛中洛外図と障壁画の美」に関する調査研究
	特別展「クリーブランド美術館展—名画でたどる日本の美」に関する調査研究
	海外展「伝統の再創造：日本の近代美術」に関する調査研究
	特別展「人間国宝展—生み出された美、伝えゆくわざ—」に関する調査研究
	特別展「支倉常長像と南蛮美術—400年前の日欧交流」に関する調査研究
	特別展「栄西と建仁寺」に関する調査研究
	特別展「キトラ古墳壁画」に関する調査研究
	特別展「台北 国立故宮博物院—神品至宝—」に関する調査研究
	特別展「日本国宝展」に関する調査研究
	特別展「みちのく仏像」に関する調査研究
	博物館の環境保存に関する研究
	博物館環境デザインに関する調査研究
	博物館教育に関する調査研究
	博物館資料・業務の情報処理に関する調査研究
	凸版印刷と共同で、ミュージアム・シアターでの公開に向けた研究を引き続き実施する
	聴力障がいを持つ児童・生徒のための鑑賞プログラムの構築に関する調査研究(学術研究助成基金助成金)
	藤ノ木古墳出土品からみた考古系博物館における展示・公開に関する総合的研究(科学研究費補助金)
	日本とドイツの美術解剖学教育の発展と展開(科学研究費補助金)
	文化財管理における美術品用語辞典の作成(科学研究費補助金)
26年度	収蔵品・寄託品及び関連品に関する調査研究
	特別調査「法隆寺献納宝物」(第36次)「書跡」「聖徳太子伝私記(古今目録抄)」(第1年度)
	特別調査「書跡」第12回
	特別調査「工芸」第6回
	特別調査「彫刻」第4回
	油彩画の材料・技法に関する共同調査
	漆塗籠棺残片の保存に関する共同研究
	東京国立博物館所蔵仏教絵画の高精細画像による共同調査
	創立150年へ向けた館史編纂のための基礎的な資料整理と調査研究
	板谷家を中心とした江戸幕府御用絵師に関する総合的研究(科学研究費補助金)
	中世聖徳太子絵伝の図像展開に関する調査研究(科学研究費補助金)
	模写資料における書の受容・鑑賞に関する基礎的研究(学術研究助成基金助成金)
	博物館における国際的な資料流通を素材とした明治期の文化交流史に関する基礎的研究(科学研究費補助金・学術研究助成基金助成金)
	宮崎県西都原古墳群出土資料基礎調査(共同調査)
	家形埴輪の群構成と階層性からみた東アジアにおける古墳葬送儀礼に関する基礎的研究(学

術研究助成基金助成金)
縄文時代における浅鉢形土器の研究 (学術研究助成基金助成金)
博物館における文化財の情報資源化に関する研究 (科学研究費補助金)
古墳時代の農具研究 (科学研究費補助金)
古代東アジア世界における染織品の伝播と使用に関する考古学および美術史学的研究 (学術研究助成基金助成金)
法隆寺献納宝物と正倉院宝物における上代染織作品の研究 (学術研究助成基金助成金)
多数尊より構成される仏教尊像に関する調査研究 (科学研究費補助金・学術研究助成基金助成金)
海外日本古美術展にみる日本観とその変遷に関する基礎的研究 (科学研究費補助金)
能狂言面の美術史的アプローチによる基礎的調査研究 (科学研究費補助金・学術研究助成基金助成金)
日本における「美術」概念の再構築—語彙と理論にまたがる総合的研究 (科学研究補助金)
描いた女性たちに関する研究—桃山時代から明治・大正期まで (科学研究費補助金)
武装具の集積現象と古墳時代中期社会の特質 (科学研究費補助金・学術研究助成基金助成金)
三次元計測を応用した青銅器製作技術からみた三角縁神獸鏡の総合的研究 (科学研究費補助金)
木彫像の樹種識別技術の高度化 (科学研究費補助金)
作品誌の観点による大徳寺伝来五百羅漢図の総合的研究 (科学研究費補助金)
在欧日本仏教美術の基礎的調査・研究とデータベース化による日本仏教美術の情報発信 (科学研究費補助金)
特別展「台北 国立故宮博物院—神品至宝—」に関する調査研究
2014 年日中韓国立博物館合同企画特別展「東アジアの華 陶磁名品展」に関する調査研究
特別展「日本国宝展」に関する調査研究
特別展「みちのくの仏像」に関する調査研究
特別展「3.11 大津波と文化財の再生」に関する調査研究
特別展「鳥獣戯画—京都 高山寺の至宝」に関する調査研究
特別展「コルカタ・インド博物館所蔵 インドの仏—仏教美術の源流」に関する調査研究
特別展「クレオパトラとエジプトの王妃展」に関する調査研究
特別展「始皇帝と大兵馬俑展」に関する調査研究
特別展「生誕 150 年 黒田清輝 (仮称) に関する調査研究
館蔵の漢籍・洋書に関する基礎的研究
東洋民族資料に関する調査研究
東日本大震災による被災文化財の保存修復と文化財の防災に関する研究
絵巻の〈伝来〉をめぐる総合的研究 (科学研究費補助金)
神像表現における物語性の研究 (学術研究助成基金助成金)
江戸幕府による自然史科学の萌芽と御用絵師の役割に関する研究 (学術研究助成基金助成金)
刀装具—派後藤家の鑑定 極帳 (鑑定控) の整理に基づく鑑定の様相と価値付けの考察 (科学研究費補助金・学術研究助成基金助成金)
中世から近代における日本絵画の受容環境の復元的考察に関する研究 (科学研究費補助金・学術研究助成基金助成金)
東アジアにおける繡仏の基礎的研究 (科学研究費補助金・学術研究助成基金助成金)
極薄青銅器の製作技術解明—中国金属工芸史を再構築するための基盤研究
ディルムン文明の起源—バハレーン島における古墳群の考古学的調査研究
東アジアからみた乾隆画壇の総合的研究 (科学研究費補助金)
高雄曼荼羅にみる古代アジア密教美術の様相 (科学研究費補助金)
古代イスラエルの墓制と他界観に関する総合的研究 (科学研究費補助金)

	中国典籍日本古写本の研究(科学研究費補助金)
	5～9世紀東アジアの金銅仏に関する日韓共同研究(科学研究費補助金)
	東アジアにおける木彫像の樹種と用材観に関する調査研究(科学研究費補助金)
	東アジア文化の基層としての儒教の視覚イメージに関する研究(科学研究費補助金)
	博物館の環境保存に関する研究
	被災博物館等汚染ガスからみた資料と環境の安定化およびその評価手法の研究(科学研究費補助金)
	博物館環境デザインに関する調査研究
	博物館教育に関する調査研究
	博物館資料・業務の情報処理に関する調査研究
	凸版印刷と共同で、ミュージアムシアターでの公開に向けた研究を引き続き実施する
	聴力障がいを持つ児童・生徒のための鑑賞プログラムの構築(学術研究助成基金助成金)
	占領期の教育政策における国立博物館の役割に関する調査研究(科学研究費補助金)
	ミュージアムにおける鑑賞者開発の研究：新来館者の定着に向けた実証的調査分析(科学研究費補助金)
	藤ノ木古墳出土品からみた考古系博物館における展示・公開に関する総合的研究(科学研究費補助金)
	日本とドイツの美術解剖学教育の発展と展開(科学研究費補助金)
	文化財管理における美術品用語事典の作成(科学研究費補助金)
	美術館の所蔵作品を活用した鑑賞教育プログラムの開発(科学研究費補助金)
27年度	収藏品・寄託品及び関連品に関する調査研究
	特別調査「法隆寺献納宝物」(第37次)
	特別調査「書跡」第13回
	特別調査「工芸」第7回
	特別調査「彫刻」第5回
	油彩画の材料・技法に関する共同調査
	東京国立博物館所蔵仏教絵画の高精細画像による共同調査
	創立150年へ向けた館史編纂のための基礎的な資料整理と調査研究
	板谷家を中心とした江戸幕府御用絵師に関する総合的研究(科学研究費補助金)
	中世聖徳太子絵伝の図像展開に関する調査研究(科学研究費補助金)
	模写資料における書の受容・鑑賞に関する基礎的研究(学術研究助成基金助成金)
	博物館における国際的な資料流通を素材とした明治期の文化交流史に関する基礎的研究(科学研究費補助金・学術研究助成基金助成金)
	能狂言面の美術史的アプローチによる基礎的調査研究(科学研究費補助金・学術研究助成基金助成金)
	博物館における文化財の情報資源化に関する研究(科学研究費補助金)
	古代東アジア世界における染織品の伝播と使用に関する考古学および美術史学的研究(科学研究費補助金)
	法隆寺献納宝物と正倉院宝物における上代染織作品の研究(学術研究助成基金助成金)
	多数尊より構成される仏教尊像に関する調査研究－図的典拠と分担製作の視点から－(科学研究費補助金・学術研究助成基金助成金)
	海外日本古美術展にみる日本観とその変遷に関する基礎的研究(科学研究費補助金)
	日本染織コレクションの形成とその美術史的価値観の確立に関する研究(科学研究費補助金)
	絵巻を中心とした古代・中世絵画の伝来に関する研究(科学研究費補助金)
	東京国立博物館所蔵写真資料データベース(科学研究費補助金)
	中世社寺縁起絵・高僧伝絵の成立と近世的受容(学術研究助成基金助成金)
	「月次祭礼図摸本」総合復元研究(科学研究費補助金)

工芸の展開—金属工芸鑄金における真土型鑄造法の研究—(科学研究費補助金)
武装具の集積現象と古墳時代中期社会の特質(科学研究費補助金)
三次元計測を応用した青銅器製作技術からみた三角縁神獸鏡の総合的研究(科学研究費補助金)
木彫像の樹種識別技術の高度化(科学研究費補助金)
特別展「コルカタ・インド博物館所蔵 インドの仏—仏教美術の源流」に関する調査研究
「クレオパトラとエジプトの王妃展」に関する調査研究
特別展「始皇帝と大兵馬俑展」に関する調査研究
特別展「生誕150年 黒田清輝(仮称)に関する調査研究
特別展「黄金のアフガニスタン—守りぬかれたシルクロードの秘宝—」に関する調査
特別展「古代ギリシャ展—時空を超えた旅—(仮)」に関する調査研究
特別展「平安の秘仏—滋賀・櫛野寺の大観音とみほとけたち」に関する調査研究
特別展「禅—心をかたちに」に関する調査研究
春日大社展(仮称)に関する調査研究
館蔵の漢籍・洋書に関する基礎的研究
東洋民族資料に関する調査研究
東日本大震災による被災文化財の保存修復と文化財の防災に関する研究
神像表現における物語性の調査研究(学術研究助成基金助成金)
江戸幕府による自然史科学の萌芽と御用絵師の役割に関する研究(学術研究助成基金助成金)
東京藝術大学附属図書館所蔵後藤家文書の調査研究(科学研究費補助金・学術研究助成基金助成金)
中世から近代における日本絵画の受容環境の復元的考察に関する調査研究(科学研究費補助金・学術研究助成基金助成金)
東アジアにおける繡仏の基礎的調査研究(科学研究費補助金・学術研究助成基金助成金)
極薄青銅器の製作技術解明—中国金属工芸史を再構築するための基礎的研究(科学研究費補助金・学術研究助成基金助成金)
高雄曼荼羅にみる古代アジア密教美術の様相に関する調査研究(科学研究費補助金・学術研究助成基金助成金)
ディルムン文明の起源—バハレーン島における古墳群の考古学的調査研究(科学研究費補助金・学術研究助成基金助成金)
清朝末期における中国踏査写真資料に関する発展的研究(科学研究費補助金)
古墳時代武装具研究の総合化と古代東アジアにおける政治史・文化史的意義の基盤的研究(学術研究助成基金助成金)
古代イスラエルの墓制と他界観に関する総合的研究(科学研究費補助金)
5~9世紀東アジアの金銅仏に関する日韓共同研究(科学研究費補助金)
東アジアにおける木彫像の樹種と用材観に関する調査研究(科学研究費補助金)
東アジア文化の基層としての儒教の視覚イメージに関する研究(科学研究費補助金)
唐・宋時代の陶磁に関する絵画資料の収集と分析(西田記念研究助成金)
七仏薬師信仰とその造像に関する研究(メトロポリタン研究助成金)
仁寿舍利塔の信仰と荘厳に関する総合的調査研究(代表者:大正大学 加島勝)
博物館の環境保存に関する研究
被災博物館等汚染ガスからみた資料と環境の安定化およびその評価手法の研究(科学研究費補助金)
博物館環境デザインに関する調査研究
博物館教育に関する調査研究
博物館資料・業務の情報処理に関する調査研究
凸版印刷と共同で実施する、ミュージアムシアターでの公開に向けた調査研究

	聴力障がいを持つ児童・生徒のための鑑賞プログラムの構築に関する調査研究(学術研究助成基金助成金)
	ミュージアムにおける鑑賞者開発の研究：新来館者の定着に向けた実証的調査分析(学術研究助成基金助成金)
	藤ノ木古墳出土品からみた考古系博物館における展示・公開に関する総合的研究(科学研究費補助金)
	「シーボルト旧蔵本」の修理およびデジタル化による公開事業
京都国立博物館	
23 年度	訓点資料としての典籍に関する調査研究
	彫刻に関する調査研究
	出土・伝世古陶磁に関する調査研究
	近代建築に関する調査研究
	特別展覧会「中国近代絵画と日本」に関する調査
	特別展覧会「王朝文化の華 陽明文庫名宝展」に関する調査研究
	近畿地区（特に京都）社寺文化財の調査研究
	近世絵画に関する調査研究
	鎌倉仏教とその造形に関する調査研究
	修復文化財に関する資料収集及び調査研究
	文化財の保存・修復に関する調査研究
	文化財情報に関する調査研究
24 年度	訓点資料としての典籍に関する調査研究
	彫刻に関する調査研究
	出土・伝世古陶磁に関する調査研究
	特別展覧会「古事記 1300 年 出雲大社大遷宮 大出雲展」に関する調査
	特別展覧会「宸翰 天皇の書-御手が織りなす至高の美-」に関する調査研究
	特別展覧会「国宝十二天像と密教法会の世界」に関する調査研究
	特集陳列「成立 800 年記念 方丈記」に関する調査研究
	特別展覧会「狩野山楽・山雪」に関する調査研究
	特別展覧会「魅惑の清朝陶磁」に関する調査
	特別展示「【時空を超えた運命の出会い】古代青銅鏡とフェラーリ F 1 美の競演」に関する調査研究
	漆工芸に関する調査研究
	近畿地区（特に京都）社寺文化財の調査研究
	近世絵画に関する調査研究
	近畿旧家伝世文化財総合調査
	鎌倉仏教とその造形に関する調査研究
	修復文化財に関する資料収集及び調査研究
	文化財の保存・修復に関する調査研究
	文化財の保存・修復に関する調査研究（立命館大学 G-COE 受託研究）
	文化財情報に関する調査研究
	博物館教育に関する調査研究
25 年度	訓点資料としての典籍に関する調査研究
	彫刻に関する調査研究(科学研究費補助金・学術研究助成基金助成金)
	出土・伝世古陶磁に関する調査研究
	特別展覧会「遊び」に関する調査研究
	特別展覧会「魅惑の清朝陶磁」に関する調査研究(学術研究助成基金助成金)
	特別展覧会「南山城の古寺巡礼」に関する調査研究

	収蔵品・寄託品及び関連品に関する調査研究
	近畿地区（特に京都）社寺文化財の調査研究(科学研究費補助金)
	近世絵画に関する調査研究
	漆工芸に関する調査研究(科学研究費補助金)
	修復文化財に関する資料収集及び調査研究
	文化財の保存・修復に関する調査研究
	文化財情報に関する調査研究
	新平常展示館の新装開館に向けた、同館における新たな教育ツールの開発のための調査研究
	高精細デジタル複製を使用した文化財鑑賞教育についての調査研究
26年度	収蔵品・寄託品及び関連品に関する調査研究
	訓点資料としての典籍に関する調査研究
	特別調査「彫刻」
	出土・伝世古陶磁に関する調査研究
	特別調査「漆工」（科学研究費補助金）
	特別展覧会「国宝 鳥獣戯画と高山寺」に関する調査研究
	特別展覧会「桃山時代の狩野派」に関する調査研究
	特別展覧会「琳派（仮称）」に関する調査研究
	特別展覧会「山陰の古刹 島根鰐淵寺の名宝」に関する調査研究
	特別展覧会「天野山金剛寺の名宝」に関する調査研究
	近畿地区（特に京都）社寺文化財の調査研究(科学研究費補助金)
	近世絵画に関する調査研究
	近畿旧家伝来財総合調査
	修復文化財に関する資料収集及び調査研究
	文化財の保存・修復に関する調査研究
	文化財情報に関する調査研究
	平成知新館における教育ツールの開発
	高精細デジタル複製を使用した文化財鑑賞教育についての調査研究
27年度	収蔵品・寄託品及び関連品に関する調査研究
	訓点資料としての典籍に関する調査研究
	特別調査「彫刻」
	出土・伝世古陶磁に関する調査研究
	特別調査「漆工」
	特別展覧会「琳派誕生 400 年記念 琳派 京を彩る」に関する調査研究
	特別展覧会「禅-心をかたち-」に関する調査研究
	近畿地区（特に京都）社寺文化財の調査研究
	京都の幕末史料に関する調査研究
	近畿旧家伝世文化財の総合調査(科学研究費補助金)
	実作例に基づく日本の宮廷および調度の基礎的研究(学術研究助成基金助成金)
	長尾雨山の中国書画受容に関する基礎的研究(学術研究助成基金助成金)
	修復文化財に関する資料収集及び調査研究
	文化財の保存・修復に関する調査研究
	文化財情報に関する調査研究
	平成知新館における、ハンズオン教材を活用した教育普及に関する調査研究
	高精細デジタル複製を使用した文化財鑑賞教育に関する調査研究
奈良国立博物館	
23年度	館蔵品・寄託品等の基礎的・総合的調査を進め、作品の適切な収集及び魅力的な展示に反映させる。
	歴史学・考古学・美術史学などの人文諸学の見地から館蔵品・寄託品等の調査研究を行い、その成果を積極的に公表する。

	中国・韓国などアジア諸国の文化財に関する調査研究を積極的に進め、日本の文化財との比較検討や相互理解に資する。
	日本とアジア諸国の文化交流に関する調査研究を進め、その成果を展示や公刊物等に反映させる。
	平成24年度春季特別展「貞慶（仮称）」、25年度春季特別展「当麻寺展（仮称）」など、将来の特別展実施に向けた調査研究を行う。
	南都諸社寺等における文化財調査を積極的に実施して宗教文化に関する調査研究の成果を蓄積し、平成23年度特別展「天竺へー三蔵法師三万キロの旅」及び特別陳列「初瀬にまずは与喜の神垣ー與喜天満神社の秘宝と神像」、毎年恒例の特別陳列「お水取り」「おん祭と春日信仰の美術」、24年度特別展「貞慶（仮称）」、25年度特別展「当麻寺（仮称）」等に反映させる。
	正倉院宝物や奈良の出土遺物・伝世品・伝統工芸・芸能など、当該地域に密着した文化財に関する調査研究を実施し、展覧会等に反映させる。
	東京文化財研究所と共同で行う天台高僧像（一乗寺蔵）、信貴山縁起絵巻（朝護孫子寺蔵）の調査など、仏教美術の光学的調査研究を実施し、作品の材料・技術等の解明に寄与する。
	収蔵庫・展示室・ケース内部等における環境の、文化財に与える影響などに関する調査研究を持続的に実施し、収蔵品の保存環境の向上を図る。
	館蔵品・寄託品等の調査研究を文化財修理の観点から実施し、文化財の活用及び後世への継承に資する。
	館蔵品・寄託品等の調査研究を保存科学の観点から実施し、貴重な文化財の後世への継承に資する。
	歴史、伝統文化の教育普及に資するための調査研究を行い、その成果を児童・生徒を対象として行う「世界遺産学習」等に反映させる。
	文化財アーカイブズの形成に関する理論的・実践的研究を行い、その成果をデジタル画像の作成・各種データベースの構築（収蔵品・画像・図書）・各種情報資源の公開推進に反映させる。
24年度	館蔵品・寄託品等の基礎的・総合的調査を進め、作品の適切な収集及び魅力的な展示に反映させる。
	歴史学・考古学・美術史学などの人文諸学の見地から館蔵品・寄託品等の調査研究を行い、その成果を積極的に公表する。
	中国・韓国などアジア諸国の文化財に関する調査研究を積極的に進め、日本の文化財との比較検討や相互理解に資する。
	日本とアジア諸国の文化交流に関する調査研究を進め、その成果を展示や公刊物等に反映させる。
	平成25年度特別展「当麻寺展（仮称）」「遼寧省遼代仏教文化展（仮称）」、26年度特別展「内山永久寺展（仮称）」「百済展（仮称）」など、将来の特別展実施に向けた調査研究を行う。
	南都諸社寺等における文化財調査を積極的に実施して宗教文化に関する調査研究の成果を蓄積し、毎年恒例の特別陳列「お水取り」「おん祭と春日信仰の美術」、24年度御遠忌800年記念特別展「解脱上人貞慶ー鎌倉仏教の本流ー」、24年度特別展「頼朝と重源ー東大寺再興を支えた鎌倉と奈良の絆ー」、24年度特別陳列「古事記の歩んできた道ー古事記撰録1300年」、25年度特別展「当麻寺展（仮称）」等に反映させる。
	正倉院宝物や奈良の出土遺物・伝世品・伝統工芸・芸能など、当該地域に密着した文化財に関する調査研究を実施し、展覧会等に反映させる。
	東京文化財研究所と共同で行う天台高僧像（一乗寺蔵）、信貴山縁起絵巻（朝護孫子寺蔵）の調査など、仏教美術の光学的調査研究を実施し、作品の材料・技術等の解明に寄与する。
	収蔵庫・展示室・ケース内部等における環境の、文化財に与える影響などに関する調査研究を持続的に実施し、収蔵品の保存環境の向上を図る。
	館蔵品・寄託品等の調査研究を文化財修理の観点から実施し、文化財の活用及び後世への継

	承に資する。
	館藏品・寄託品等の調査研究を保存科学の観点から実施し、貴重な文化財の後世への継承に資する。
	歴史、伝統文化の教育普及に資するための調査研究を行い、その成果を児童・生徒を対象として行う「世界遺産学習」等に反映させる。
	文化財アーカイブズの形成に関する理論的・実践的研究を行い、その成果をデジタル画像の作成・各種データベースの構築（収藏品・画像・図書）・各種情報資源の公開推進に反映させる。
25年度	館藏品・寄託品等の基礎的・総合的調査を進め、展示内容の充実と適切な収集につなげる。
	館藏品・寄託品研究の基礎となる文化財調査を積極的に実施する。
	平安時代の大般若経を総合的に調査し、歴史資料としての資源化を進める。(学術研究助成基金助成金)
	中国・韓国などアジア諸国の文化財に関する調査研究
	日本とアジア諸国の文化交流に関する調査研究
	特別展「武家のみやこ 鎌倉の仏像 ー迫真とエキゾチズム」に関する調査研究
	特別陳列「おん祭と春日信仰の美術」に関する調査研究
	當麻曼荼羅完成 1250 年記念特別展「當麻寺ー極楽浄土へのあこがれー」に関する調査研究
	特別展「みほとけのかたちー仏像に会うー」に関する調査研究
	特別展「正倉院展」に関する調査研究
	綴織當麻曼荼羅（當麻寺蔵）、信貴山縁起絵巻（朝護孫子寺蔵）の調査など、東京文化財研究所と共同で仏教美術の光学的調査研究を実施し、作品の材料・技術等の解明に寄与する。
	収蔵庫・展示室・ケース内部等における環境の、文化財に与える影響などに関する調査研究を持続的に実施し、収蔵品の保存環境の向上を図る。
	館藏品・寄託品等の調査研究を文化財修理の観点から実施し、文化財の活用及び後世への継承に資する。
	館藏品・寄託品等の調査研究を保存科学の観点から実施し、貴重な文化財の後世への継承に資する。
	歴史、伝統文化の教育普及に資するための調査研究を行い、その成果を児童・生徒を対象として行う「世界遺産学習」等に反映させる。
	文化財アーカイブズの形成に関する理論的・実践的研究を行い、その成果をデジタル画像の作成・各種データベースの構築（収藏品・画像・図書）・各種情報資源の公開推進に反映させる。(学術研究助成基金助成金)
26年度	収藏品・寄託品及び関連品に関する調査研究
	復元模写制作に伴う仏教絵画の光学的調査と研究
	平安時代の大般若経を総合的に調査し、歴史資料としての情報資源化を図る(学術研究助成基金助成金)
	仏教工芸の総合的調査
	古墳・古墓出土品の調査と研究
	醍醐寺文書聖教 7 万点 国宝指定記念特別展「国宝 醍醐寺のすべてー密教のほとけと聖教ー」に関する調査研究
	特別展「天皇皇后両陛下傘寿記念 第 66 回正倉院展」に関する調査研究
	特別陳列「おん祭と春日信仰の美術」に関する調査研究
	特別陳列「お水取り」に関する調査研究
	特別展「まぼろしの久能寺経に出会う 平安古経展」に関する調査研究
	開館 120 年記念特別展「白鳳」に関する調査研究
	南都の古代・中世の彫刻に関する調査と研究
	綴織當麻曼荼羅（當麻寺蔵）、信貴山縁起絵巻（朝護孫子寺蔵）の調査など、東京文化財研究所

	<p>所と共同で仏教美術の光学的調査研究を実施し、作品の材料・技術等の解明に寄与する。</p> <p>収蔵庫・展示室・ケース内部等における環境の、文化財に与える影響などに関する調査研究を持続的に実施し、収蔵品の保存環境の向上を図る。</p> <p>収蔵品・寄託品等の調査研究を文化財修理の観点から実施し、文化財の活用及び後世への継承に資する。</p> <p>収蔵品・寄託品等の調査研究を保存科学の観点から実施し、貴重な文化財の後世への継承に資する。</p> <p>歴史、伝統文化の教育普及に資するための調査研究を行い、その成果を児童・生徒を対象として行う「世界遺産学習」等に反映させる。</p> <p>文化財アーカイブズの形成に関する理論的・実践的研究を行い、その成果をデジタル画像の作成・各種データベースの構築（収蔵品・画像・図書）・各種情報資源の公開推進に反映させる。</p>
27 年度	<p>収蔵品・寄託品及び関連品に関する調査研究</p> <p>復元模写制作に伴う仏教絵画の光学的調査と研究</p> <p>平安時代の大般若経の総合的研究と、歴史資料としての情報資源化に関する研究(学術研究助成基金助成金)</p> <p>仏教工芸の総合的調査</p> <p>古墳・古墓出土品の調査と研究</p> <p>特別展「白鳳」に関する調査研究</p> <p>特別展「第 67 回正倉院展」に関する調査研究</p> <p>特別展「国宝 信貴山縁起一朝護孫子寺と毘沙門天王信仰の至宝」に関する調査研究</p> <p>南都の古代・中世の彫刻に関する調査と研究</p> <p>綴織當麻曼荼羅（當麻寺蔵）、信貴山縁起絵巻（朝護孫子寺蔵）の調査など、東京文化財研究所と共同で仏教美術の光学的調査研究を実施し、作品の材料・技術等の解明に寄与する。</p> <p>伊豆山権現立像（静岡・伊豆山神社蔵）の自然科学的及び美術史学的研究</p> <p>春日信仰を中心とした南都における神祇信仰の展開とその遺品に関する総合的研究（科学研究費補助金）</p> <p>真言密教聖教の歴史史料としての調査・研究と活用（学術研究助成基金助成金）</p> <p>収蔵庫・展示室・ケース内部等における環境の、文化財に与える影響などに関する調査研究を持続的に実施し、収蔵品の保存環境の向上を図る。</p> <p>収蔵品・寄託品等の調査研究を文化財修理の観点から実施し、文化財の活用及び後世への継承に資する。</p> <p>収蔵品・寄託品等の調査研究を保存科学の観点から実施し、貴重な文化財の後世への継承に資する。</p> <p>歴史、伝統文化の教育普及に資するための調査研究を行い、その成果を児童・生徒を対象として行う「世界遺産学習」等に反映させる。</p> <p>文化財アーカイブズの形成に関する理論的・実践的研究を行い、その成果をデジタル画像の作成・各種データベースの構築（収蔵品・画像・図書）・各種情報資源の公開推進に反映させる。</p>
九州国立博物館	
23 年度	<p>X線CTスキャナによる中国古代青銅器の構造技法解析（科学研究費補助金）</p> <p>平成 20 年度特別展「工芸のいま 伝統と創造」に関連した九州・沖縄の伝統工芸作家への調査を受けて、継続的かつ発展的に調査研究活動を行う</p> <p>旧石器から弥生時代の日本人の起源に関する調査研究</p> <p>縄文時代の火焰土器に関する調査研究</p> <p>中国内蒙古自治区出土の契丹文化に属する考古遺物に関する調査研究</p>

	館蔵水墨画を中心とした日・中・韓の水墨画に関する調査研究
	中国湖南省の馬王堆漢墓に関する調査研究
	朝鮮半島、三国時代の考古・美術に関する調査研究
	日本とアジア諸国との文化交流に関する調査研究
	アジアの木地螺鈿—その源流、正倉院宝物への道をたどる—（科学研究費補助金）
	琉球との交流の視点から京都檀王法林寺に関する調査研究
	文化財の材質・構造等に関する共同研究
	博物館における文化財保存修復に関する研究
	博物館危機管理としての市民協同型 IPM システム構築に向けての基礎研究
	東アジアの文化財修復用手漉き和紙の調査研究（UNESCO との共同）
	日本の文化財修理と保存、復元に関する調査研究
	九博に関連する絵本の次シリーズの企画に関する調査研究
	NHK と協同で高精細画像を活用したシアター4000 での映像公開に向けた研究
	特別展のテーマに則した、解説パネル、冊子、ワークショップ等、観覧者の理解促進のための教育普及プログラムの調査研究
	学校教育との連携を図りながら、学校貸出キット「きゅうぱっく」の研究・開発
	X線CTによる九州所在彫像重要作例の三次元的解析（科学研究費補助金）
	南アジアと東方アジアの螺鈿構造—技術比較の視点から—（メトロポリタン東洋美術研究センター研究助成）
	平山郁夫 画業と文化財保護活動に関する調査研究
	館蔵品を中心とした漆器の調査研究
24年度	X線CTスキャナによる青銅器・彫刻・漆工などの構造技法解析（科学研究補助金・学術研究助成基金助成金）
	平成20年度特別展「工芸のいま 伝統と創造」に関連した九州・沖縄の伝統工芸作家への継続的かつ発展的な調査研究
	日本中世の工芸、特に茶道具に関する調査研究
	印籠に関する調査研究
	対馬宗家文書に関する調査研究
	中世大般若経の史料学構築に向けての基礎的研究（学術研究助成基金助成金）
	中国南京博物院所蔵絵画、鎮江焦山碑刻博物館所蔵拓本に関する調査研究
	ベトナムにおける16～17世紀の海外交易に関する調査研究
	朝鮮半島、三国時代の考古・美術に関する調査研究
	九州における対外交流文化財の保存と活用に向けた研究基盤の創設（科学研究費補助金）
	タイにおける異文化の受容と変容—13世紀から18世紀の対外交易品を中心として—（科学研究費補助金・学術研究助成基金助成金）
	日本とアジア諸国との文化交流に関する調査研究
	文化財の材質・構造等に関する共同研究
	博物館における文化財保存修復に関する研究
	博物館危機管理としての市民協同型 IPM システム構築に向けての基礎研究
	東アジアの文化財修復用手漉き和紙の調査研究（UNESCO との共同）
	デジタル計測技術を使用した文化財の予防保存に関する調査研究（学術研究助成基金助成金）
	三次元データに基づく文化財研究と新展示手法の開発 —興福寺 国宝阿修羅像を中心に—（科学研究費補助金・学術研究助成基金助成金）
	高精細大型スキャナによる日本刀の保存状態に関する調査研究
	NHK と協同で高精細画像を活用したシアター4000 での映像公開に向けた研究
	特別展のテーマに則した、解説パネル、冊子、ワークショップ等、観覧者の理解促進のための教育普及プログラムの調査研究

	学校教育との連携を図りながら、学校貸出キット「きゅうぱっく」の研究・開発
	平成 27 年度に迎える開館 10 周年における一定程度のリニューアルを見据えた、現在の展示施設、展示環境や展示方法の課題や展望についての検討
	高等学校所蔵考古資料の調査研究
	平山郁夫が関与した文化財保護活動に関する調査研究
	ヨーロッパ美術にみる文化交流に関する調査研究
	芦屋釜の制作と復元に関する調査研究
25 年度	X 線 CT スキャナによる青銅器・彫刻・漆工などの構造技法解析
	平成 20 年度特別展「工芸のいま 伝統と創造」に関連した九州・沖縄の伝統工芸作家への継続的かつ発展的な調査研究
	日本中世の工芸、特に茶道具に関する調査研究
	中世大般若経の史料学構築に向けての基礎的研究（学術研究助成基金助成金）
	九州南島の先史時代の資料に関する調査研究
	和泉市久保惣記念美術館の収蔵品の調査研究
	収蔵品・寄託品及び関連品に関する調査研究
	西光寺梵鐘の総合調査
	朝鮮半島、三国時代の考古・美術に関する調査研究
	九州における対外交流文化財の保存と活用に向けた研究基盤の創設（科学研究費補助金）
	武雄市図書館・歴史資料館所蔵の鍋島家資料の調査研究
	神戸市立博物館所蔵の江戸時代の対外交渉に関連する作品の調査研究
	中国・山東省荷澤出土の螺鈿箱（高麗経箱）に関する調査研究（学術研究助成基金助成金）
	タイにおける異文化の受容と変容－13 世紀から 18 世紀の対外交易品を中心として－（科学研究費補助金・学術研究助成基金助成金）
	ベトナムと我が国との間の文化財を通じた交流についての調査研究
	中世～近世初期の対馬宗氏領国に関する基礎的研究（学術研究助成基金助成金）
	契丹壁画墓の集成と公開－唐滅亡後の東アジアにおける国家形成過程の視覚的理解－（科学研究費補助金・学術研究助成基金助成金）
	水中遺跡の保存活用に関する調査研究（文化庁受託事業）
	特別公開「江上波夫の眼 ことばとたち」に関する調査研究
	日本とアジア諸国との文化交流に関する調査研究
	特別展「中国 王朝の至宝」に関する調査研究
	特別展「尾張徳川家の至宝」に関する調査研究
	特別展「国宝 大神社展」に関する調査研究
	特別展「華麗なる宮廷文化 近衛家の国宝展」に関する調査研究
	特別展「クリーブランド美術館展－名画でたどる日本の美」に関する調査研究
	特別展「台北 国立故宮博物院－神品至宝－」展に関する調査研究
	文化財の材質・構造等に関する共同研究
	博物館における文化財保存修復に関する研究
	博物館危機管理としての市民協同型 IPM システム構築に向けての基礎研究
	東アジアの文化財修復用手漉き和紙の調査研究（UNESCO との共同）
	赤外線撮影法による彩色材料調査の有効性に関する研究（学術研究助成基金助成金）
	三次元データに基づく文化財研究と新展示手法の開発－興福寺 国宝阿修羅像を中心に－（科学研究費補助金・学術研究助成基金助成金）
	三次元デジタル継続技術を活用した中国古代青銅器の製作技法の研究（科学研究費補助金・学術研究助成基金助成金）
	石棺に塗布された赤色顔料についての基礎的研究（学術研究助成基金助成金）
	NHK と協同で高精細画像を活用したシアター4000 での映像公開に向けた研究

	特別展のテーマに則した、解説パネル、冊子、ワークショップ等、観覧者の理解促進のための教育普及プログラムの調査研究
	学校教育との連携を図りながら、学校貸出キット「きゅうぱっく」の研究・開発
	平成 27 年度に迎える開館 10 周年における一定程度のリニューアルを見据えた、現在の展示施設、展示環境や展示方法の課題や展望についての検討
	高等学校所蔵考古資料の調査研究
26 年度	収蔵品・寄託品及び関連品に関する調査研究
	X線CTスキャナによる青銅器・彫刻・漆工などの構造技法解析
	日本中世の工芸、特に茶道具に関する調査研究
	日本中世における仏涅槃図の基礎的研究
	特別展「古代日本と百済の交流―大宰府・飛鳥そして公州・扶餘―」に関する調査研究
	特別展「発掘された日本列島 2014」に関する調査研究
	特別展「戦国大名―九州の群雄とアジアの波濤―」に関する調査研究
	特別展「大英博物館 世界の歴史展（仮称）」に関する調査研究
	特別展「美の国日本 part II」展に関する調査研究
	特別展「アフガニスタン美術展」に関する調査研究
	日本とアジア諸国との文化交流に関する調査研究
	九州における対外交流文化財の保存と活用に向けた研究基盤の創設（科学研究費補助金）
	中国・山東省荷澤出土の螺鈿箱（高麗経箱）に関する調査研究（学術研究助成基金助成金）
	タイにおける異文化の受容と変容―13 世紀から 18 世紀の対外交易品を中心として―（科学研究費補助金・学術研究助成基金助成金）
	中世～近世初期の対馬宗氏領国に関する基礎的研究（学術研究助成基金助成金）
	契丹壁画墓の集成と公開 ―唐滅亡後の東アジアにおける国家形成過程の視覚的理解―（科学研究費補助金・学術研究助成基金助成金）
	水中遺跡の保存活用に関する調査研究（文化庁受託事業）
	朝鮮半島、三国時代の考古・美術に関する調査研究
	VR技術を活用した装飾古墳アーカイブに関する調査研究
	平成 20 年度特別展「工芸のいま 伝統と創造」に関連した九州・沖縄の伝統工芸作家への継続的かつ発展的な調査研究
	和泉市久保惣記念美術館の収蔵品の調査研究
	中世大般若経の史料学構築に向けての基礎的研究
	九州南島の交流史に関する調査研究
	文化財の材質・構造等に関する共同研究
	博物館における文化財保存修復に関する研究
	博物館危機管理としての市民協同型 I PMシステム構築に向けての基礎研究
	赤外線撮影法による彩色材料調査の有効性に関する研究（学術研究助成基金助成金）
	三次元データに基づく文化財研究と新展示手法の開発 ―興福寺 国宝阿修羅像を中心に―（科学研究費補助金・学術研究助成基金助成金）
	三次元デジタル計測技術を活用した中国古代青銅器の製作技法の研究（科学研究費補助金・学術研究助成基金助成金）
	石棺に塗布された赤色顔料についての基礎的研究（学術研究助成基金助成金）
	酸化促進剤の添加による文化財建造物用油性塗料の塗膜形成研究（学術研究助成基金助成金）
	みんなでまもるミュージアム（文化庁文化芸術振興費補助金）
	NHK と協同で高精細画像を活用したスーパーハイビジョンシアターでの映像公開に向けた研究
	特別展のテーマに則した、解説パネル、冊子、ワークショップ等、観覧者の理解促進のための教育普及プログラムの調査研究

	学校教育との連携を図りながら、学校貸出キット「きゅうぱっく」の研究・開発
	平成 27 年度に迎える開館 10 周年における一定程度のリニューアルを見据えた、現在の展示施設、展示環境や展示方法の課題や展望についての検討
	高等学校所蔵考古資料の調査研究
	文化財管理及び画像情報データベースの効率的な運用についての調査研究
27 年度	収蔵品・寄託品及び関連品に関する調査研究
	X線CTスキャナによる青銅器・彫刻・漆工などの構造技法解析に関する調査研究
	日本中近世の工芸、特に茶道具に関する調査研究
	特別展「始皇帝と大兵馬俑」に関する調査研究
	特別展「東山魁夷 自然と人、そして町」に関する調査研究
	特別展「京都 高山寺と明恵上人―特別公開 鳥獣戯画―」に関する調査研究
	日本とアジア諸国との文化交流に関する調査研究
	中世～近世初期の対馬宗氏領国に関する基礎的研究(学術研究助成基金助成金)
	契丹壁画墓の集成と公開―唐滅亡後の東アジアにおける国家形成過程の視覚的理解―に関する調査研究(科学研究費補助金及び学術研究助成基金助成金)
	水中遺跡の保存・活用に関する調査研究(文化庁受託事業)
	平成 20 年度に開催した特別展「工芸のいま 伝統と創造」の成果を基礎とした、九州・沖縄の伝統工芸作家についての継続的かつ発展的な調査研究
	タイにおける異文化の受容と変容―13 世紀から 18 世紀の対外交易品を中心として―(科学研究費補助金及び学術研究助成基金助成金)
	トピック展示「有田焼創業 400 年記念展 旧家の生活を彩った器―古伊万里―」に関する調査研究
	酒井田家文書にみる大名家からの御注文品に関する研究(公益信託 西田記念東洋陶磁史研究助成基金)
	出土・在銘遺品を中心とした調査による明代彫漆器の基礎的研究(学術研究助成基金助成金)
	日タイ間の文化交流に関する資料集成と統合的研究(科学研究費補助金)
	文化財の材質・構造等に関する共同研究
	博物館における文化財保存修復に関する研究
	博物館危機管理としての市民協同型 I P M システム構築に向けての基礎研究
	石棺に塗布された赤色顔料についての基礎的研究(学術研究助成基金助成金)
	酸化促進剤の添加による文化財建造物用油性塗料の塗膜形成研究(学術研究助成基金助成金)
	みんなでももる文化財みんなをまもるミュージアム(文化庁文化芸術振興費補助金)
	文化財に使用された彩色材料に関する面的調査法の検討(学術研究助成基金助成金)
	彩色塗装のある歴史的木造文化財建造物の加湿温風処理による虫害処理方法の検討に係る調査研究(科学研究費補助金)
	N H K と共同で実施する、高精細画像を活用したスーパーハイビジョンシアターでの映像公開に向けた調査研究
	特別展のテーマに則した、解説パネル、冊子、ワークショップ等、観覧者の理解促進のための教育普及プログラムの調査研究
	学校教育現場との連携を図って作り上げる学校貸出キット「きゅうぱっく」の研究・開発
	文化交流展示室に関して現在の展示施設、展示環境や展示方法の調査研究
	高等学校所蔵考古資料の調査研究
	文化財管理及び画像情報データベースの効率的な運用についての調査研究
	潜在的利用者をつくる新しい博物館の活動「きゅーはく女子考古部」についての調査研究

5 文化財保護に関する国際協力の推進

中期目標

文化財の保護に関する国際協力の拠点としての位置づけを明確化するとともに、その機能の充実を図り、我が国の国際貢献に寄与すること。

- (1) 研究機関間の連携強化や共同研究、研究者間の情報交換の活発化、継続的な国際協力のネットワークの構築、アジア諸国等における文化財の保護協力、技術移転・専門家養成等の支援等、有機的・総合的な事業展開を行い、人類共通の財産である文化財の保護に関する国際協力を通じて、我が国の国際貢献に寄与すること。

中期計画

5 文化財保護に関する国際協力の推進

文化財保護に関する国際協力に関して、以下の事業を有機的・総合的に展開することにより、人類共通の財産である文化財保護に関する国際協力を通じて、我が国の国際貢献に寄与する。

- (1) 文化財の保護制度や施策の国際動向及び国際協力等の情報を収集、分析して活用する。また、国内の研究機関間の連携強化や共同研究、研究者間の情報交換の活発化を図るとともに、継続的な国際協力のネットワークを構築し、その成果をもとにアジア地域を中心とする諸外国の文化財の保護事業を推進する。
- (2) 国際共同研究等を通じて諸外国の保存・修復の考え方や技術に関する研究を進め、国際協力を推進するための基盤を形成するとともに、その成果をもとにアジア地域を主とする諸外国において文化財保護事業を推進する。
- (3) 文化財保護の担当者や学芸員並びに保存修復専門家を対象とした研修や専門家の派遣を通じて諸外国における文化財の保存・修復に関する人材育成と技術移転を積極的に進める。

実績

5 文化財保護に関する国際協力に関する調査研究

我が国の国際貢献に寄与するため、研究機関間の連携強化や共同研究、研究者間の情報交換の活発化、継続的な国際協力のネットワークの構築により、情報の収集分析及びその提供を行った。また、カンボジアや西アジア諸国等における文化財の保護への協力、国際研修などによる技術移転・専門家養成等の支援等、有機的・総合的な事業展開を行っている。さらに、国際的なネットワーク構築のため、国際会議への参加や国際シンポジウムの開催等を継続的に行い、専門家間の交流や情報交換を推進した。国際協力事業については、カンボジアなどアジア地域を中心に文化財保存修復に積極的に協力し、国際協力が図られている。

【調査研究テーマ件数推移】（延べ件数）

	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	合計
東京文化財研究所	6	6	8	8	7	35
奈良文化財研究所	1	1	2	2	2	8
合計	7	7	10	10	9	43

【学術雑誌等への論文掲載数推移】（件）

	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	合計
東京文化財研究所	0	0	2	3	2	7
奈良文化財研究所	0	2	1	0	0	3
合計	0	2	3	3	2	10

【学会、研究会での発表件数推移】（件）

	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	合計
東京文化財研究所	2	8	11	14	22	57
奈良文化財研究所	2	2	2	0	0	6
合計	4	10	13	14	22	63

【調査研究テーマ一覧】

東京文化財研究所	
23年度	文化財保護に関する国際情報の収集・研究・発信
	東アジア諸国文化遺産保存修復協力

	東南アジア諸国文化遺産保存修復協力
	西アジア諸国等文化遺産保存修復協力事業
	文化財保存修復手法の国際的研究
	諸外国の文化財保護に係る人材育成
24年度	文化財保護に関する国際情報の収集・研究・発信
	中国壁画の保護に関する日中共同研究
	東南アジア諸国文化遺産保存修復協力
	西アジア諸国等文化遺産保存修復協力事業
	国際研修「紙の保存と修復」
	在外日本古美術保存修復協力事業
25年度	文化財保護に関する国際情報の収集・研究・発信
	中国の文化遺産の保存修復のための共同研究
	韓国および日本の石造文化財を対象に保存修復のための共同研究
	東南アジア諸国等文化遺産保存修復協力
	西アジア諸国等文化遺産保存修復協力事業
	ユーラシア壁画の調査研究と保存修復
	国際研修「紙の保存と修復」
	在外日本古美術保存修復協力事業
26年度	文化財保護に関する国際情報の収集・研究・発信
	中国の文化遺産の保存修復のための共同研究
	韓国及び日本の石造文化財を対象に保存修復のための共同研究
	東南アジア諸国等文化遺産保存修復協力
	西アジア諸国等文化遺産保存修復協力事業
	ユーラシア壁画の調査研究と保存修復
	国際研修「紙の保存と修復」
	在外日本古美術保存修復協力事業
27年度	中国の文化遺産の保存修復のための共同研究
	韓国及び日本の石造文化財を対象に保存修復のための共同研究
	東南アジア諸国等文化遺産保存修復協力
	西アジア諸国等文化遺産保存修復協力事業
	ユーラシア壁画の調査研究と保存修復
	国際研修「紙の保存と修復」
	在外日本古美術保存修復協力事業
奈良文化財研究所	
23年度	カンボジア・アンコールワット遺跡群の西トップ寺院遺跡、ベトナム・タンロン皇城遺跡の建築史的、考古学的、保存科学的調査
24年度	カンボジア・アンコールワット遺跡群の西トップ寺院遺跡、ベトナム・タンロン皇城遺跡の建築史的、考古学的、保存科学的調査
25年度	カンボジア・アンコールワット遺跡群の西トップ遺跡、ベトナム・タンロン皇城遺跡の建築史的、考古学的、保存科学的調査
	ユネスコアジア文化センター等が実施する研修への協力
26年度	カンボジア・アンコールワット遺跡群の西トップ遺跡、ベトナム・タンロン皇城遺跡の建築史的、考古学的、保存科学的調査
	ユネスコアジア文化センター等が実施する研修への協力
27年度	カンボジア・アンコールワット遺跡群の西トップ遺跡の建築学的、考古学的、保存科学的調査
	ユネスコアジア文化センター等が実施する研修への協力

中期目標

(2) 平成23年度にアジア太平洋無形文化遺産研究センターを開設し、同地域における無形文化遺産保護に寄与すること。

中期計画

(4) 23年度にアジア太平洋無形文化遺産研究センターを設置し、ユネスコ無形文化遺産保護条約を中心とした国際的動向の情報収集を図り、アジア太平洋地域における無形文化遺産保護に係る調査・研究の拠点として、同地域の無形文化遺産保護に関する基礎的な調査・研究を行うとともに、我が国の知見を通じて、無形文化遺産保護の国際的充実に資する。

実績

(2) アジア太平洋地域における無形文化遺産保護

23年10月にアジア無形文化遺産研究センターを設置し、同地域における無形文化遺産保護のため、以下のとおり事業を実施した。

文化庁受託事業及び文部科学省補助金により、アジア太平洋地域における無形文化遺産保護の調査研究に関する情報収集と研究促進にむけたデータベース構築及び国際専門家会合、消滅の危機に瀕する無形文化遺産保護の現状・方策に関する現地での実態調査やワークショップを実施した。

特に、25年度には、「無形文化遺産保護条約採択10周年記念シンポジウム」を開催した。

【調査研究テーマ一覧】

アジア太平洋無形文化遺産研究センター	
23年度	アジア太平洋無形文化遺産研究センターの設置、およびアジア太平洋地域における無形文化遺産保護に関する基礎的な調査・研究
24年度	アジア太平洋地域における無形文化遺産保護に関する基礎的な調査・研究の推進
25年度	アジア太平洋地域における無形文化遺産保護に関する基礎的な調査・研究の推進
26年度	アジア太平洋地域における無形文化遺産保護に関する基礎的な調査・研究の推進
27年度	アジア太平洋地域における無形文化遺産保護に関する基礎的な調査・研究の推進

【学術雑誌等への論文掲載数推移】 (件)

	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	合計
アジア太平洋無形文化遺産研究センター	0	1	1	1	1	4
合計	0	1	1	1	1	4

【学会、研究会での発表件数推移】 (件)

	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	合計
アジア太平洋無形文化遺産研究センター	2	6	1	0	3	12
合計	2	6	1	0	3	12

6 情報資料の収集・整備及び調査研究成果の発信

中期目標

国際化の推進を図るためインターネット等による情報発信を強化し、調査・研究の成果について、迅速な報告書の発行、利用価値の高いデータベースの構築等により、適時適切な公表を推進するとともに、施設の有効活用を図ることにより、研究者をはじめ広く社会に還元すること。

中期計画

6 情報資料の収集・整備及び調査研究成果の発信

以下のとおり、調査・研究に基づく資料の作成及び文化財に関連する資料の収集・整理・保管を行うとともに、調査・研究成果を積極的に公表・公開し、国内外の研究者や広く一般の人が調査・研究成果を容易に入手できるよ

うにする。

(1) 文化財関係の情報を収集して積極的に発信するため、ネットワークのセキュリティの強化及び高速化等に対応した情報基盤の整備・充実を行う。

また、文化財情報の計画的収集・整理・保管及びそれらの電子化の推進による文化財に関する専門的アーカイブの拡充を行うとともに、調査・研究に基づく成果としてのデータベースの充実を行う。

(2) 文化財に関する調査・研究に基づく成果について、定期的な刊行物を刊行するとともに、公開講演会、現地説明会、国際シンポジウムの開催等により、積極的に公開・提供する。また、研究所の研究・業務等を広報するためウェブサイトの充実を図るとともに、ウェブサイトアクセス件数のカウントの統一を図り、アクセス件数の向上を図る。

(3) 平城宮跡資料館、藤原宮跡資料室、飛鳥資料館については、研究成果の公開施設としての役割を強化する観点から展示を充実させ、調査・研究成果の内容を広く一般に理解を深めてもらうことに資する。来館者数については、前期中期目標期間の年度平均（特別展示等による来館者数の著しい変動実績を除く。）以上確保する。

(4) 文化庁と国土交通省が行う平城宮跡、飛鳥・藤原宮跡等の公開・活用事業に協力し、支援を実施する。また、宮跡等への来訪者に文化財及び文化財研究所の研究成果等に関する理解を深めてもらうため、解説ボランティアを育成するとともに、NPO法人等が自主的に行う各種ボランティア事業に対して活動機会・場所の提供等の支援を行う。

実績

6 情報資料の収集・整備及び調査研究成果の発信

国際化の推進を図るためインターネット等による情報発信を強化し、調査・研究の成果について、迅速な報告書の発行、利用価値の高いデータベースの構築等により、適時適切な公表を推進するとともに、施設の有効活用を図り、社会へ還元した。主な取り組みは以下のとおり。

- ・ネットワーク機器の更新を逐次実施し、機器の更新や無線 LAN のアクセスポイントを追加した。(東文研)(奈文研) また、26 年度には仮想サーバを導入した。(東文研)
- ・データベースについてデータの入力・更新と改善に継続的に取り組んだ。(東文研)(奈文研)
- ・図書の収集・整理・公開・提供を行った。(東文研)(奈文研)
- ・定期刊行物の刊行を行った。(東文研)(奈文研)
- ・23 年度の「第 35 回文化財の保存及び修復に関する国際研究集会」を初め、国際研究集会やオープンレクチャーを実施した。(東文研)
- ・公開講演会を実施し、発掘調査に伴う現地説明会等を随時実施した。(奈文研)
- ・平城宮跡資料館において、特別展・企画展・ギャラリートークを開催した。(奈文研)
- ・飛鳥資料館において、特別展・企画展・講演会を開催した。(奈文研)
- ・藤原宮跡資料室において、発掘調査の速報展示などを通年で実施した。(奈文研)
- ・文化庁、国土交通省が行う平城宮跡、飛鳥・藤原宮跡等の復原・整備への協力では、専門的・技術的な援助・助言を行い、立会調査等も実施した。(奈文研)
- ・平城宮跡解説ボランティア事業では、専門研修及び他機関の文化財に関するボランティアガイドが解説する場に赴き、臨地研修を実施するなどした。(奈文研)

【ウェブサイトアクセス件数推移】 (人)

	23 年度	24 年度	25 年度	26 年度	27 年度	合計
東京文化財研究所	1,314,541	(*1) 1,230,718	1,410,075	1,603,086	1,941,504	7,499,924
奈良文化財研究所	457,154	425,044	447,563	525,886	605,211	2,460,858

*1 参考値。サーバの入替の際にアクセスログ保存期間の設定に誤りがあり、24 年 10 月～25 年 2 月のアクセスログが消失したことから、アクセス件数は不明である。ログが保存されている 7 ヶ月間のアクセス件数 717,919 件の月平均を 12 倍した値を、参考値として記載している。

【研究公開施設来館者数推移】 (人)

	23 年度	24 年度	25 年度	26 年度	27 年度	合計
平城宮跡資料館	132,295	124,515	108,896	109,188	105,334	580,228

飛鳥資料館	42,479	38,854	41,736	38,096	42,749	203,914
藤原宮跡資料室	2,971	9,510	7,869	8,461	10,933	39,744
合計	177,745	172,879	158,501	155,745	159,016	823,886

【学術雑誌等への論文掲載数推移】 (件)

	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	合計
東京文化財研究所	0	0	1	0	0	1
奈良文化財研究所	0	0	9	4	3	16
合計	0	0	10	4	3	17

【学会、研究会での発表件数推移】 (件)

	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	合計
東京文化財研究所	0	0	0	0	0	0
奈良文化財研究所	2	1	1	0	0	4
合計	2	1	1	0	0	4

7 地方公共団体への協力等による文化財保護の質的向上

中期目標

我が国の文化財に関する調査・研究の中核として、これまでの調査・研究の成果を活かし、地方公共団体や大学、研究機関とのネットワークや連携協力体制を構築し、機構が行った調査・研究成果の発信等を通じて、文化財に関する協力・助言の円滑かつ積極的な実施を図り、我が国全体の文化財の収集・展示、調査・研究の質的向上に寄与すること。また、地方公共団体等の指導者層を主たる対象とする高度な研修事業や、若手研究者の育成に寄与するため実践的な連携大学院教育を実施し、今後の我が国の文化財保護における中核的な人材を育成すること。

中期計画

7 地方公共団体への協力等による文化財保護の質的向上

我が国の文化財に関する調査・研究の中核として、これまでの調査・研究の成果を活かし、国・地方公共団体等に対する専門的・技術的な協力・助言を行うことにより、我が国全体の文化財の調査・研究の質的向上に寄与する。また、専門指導者層を対象とした研修等を行い、文化財保護に必要な人材を養成する。

- (1) 地方公共団体や大学、研究機関との連携・協力体制を構築し、これらの機関が有する文化財に関する情報の収集、知見・技術の活用、本機構が行った調査・研究成果の発信等を通じて、文化財に関する協力・助言の円滑かつ積極的な実施を行う。
- (2) 文化財に関する高度な研究成果をもとに、地方公共団体等で中核となる文化財担当者に対し埋蔵文化財等に関する研修を実施するとともに、保存担当学芸員に対し保存科学に関する研修を実施する。

実績

(1) 協力・助言等

我が国の文化財に関する調査・研究の中核として、地方公共団体や大学、研究機関との連携・協力体制を構築し、これらの機関が有する文化財に関する情報の収集、知見・技術の活用、本機構が行った調査・研究成果の発信等を通じて、多岐にわたる領域について、文化財に関する多数の協力・助言の円滑かつ積極的な実施を行った。特に、東日本大震災後の文化財レスキュー事業については、通常業務がある中で、東京文化財研究所を中心に機構全体で取り組みを行ない、放射能汚染地区からの文化財の救出など、きわめて危険な任務を果たし、機構の存在意義を高め、ナショナルセンターとしての大きな貢献を果たしたといえる。また、東日本大震災の被災地の地方公共団体からの要請に応じた適切な活動を実施するとともに、昨年度に引き続き、独自に開発した調査技術の導入を適切に行う等、より効率的な発掘調査を行うことができた。

【指導・助言件数推移】(件)

東京文化財研究所					
	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
文化財の収集、保存、展示に関する指導助言(東文研)	—	—	25	23	19
無形文化遺産に関する助言	32	25	9	13	11
文化財の修復及び整備に関する調査・助言	228	40	44	48	77
文化財の虫菌害に関する調査・助言	—	—	33	37	36
文化財の材質・構造に関する調査・助言	—	—	13	15	20
美術館・博物館等の環境に関する調査・助言(東文研)	—	—	341	780	660
文化財レスキュー事業 ※文化庁受託経費からの件数	59	50	—	—	—
所外経費による指導・助言 (文化財のカビ被害予防と対策、文化財の保存環境、文化財の材質及び劣化等に係る指導・助言)	—	230	—	—	—
計	319	345	465	916	823
奈良文化財研究所					
	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
地方公共団体等が行う史跡の整備、復原事業等に関する技術的助言	315	337	345	384	367
地方公共団体が行う平城京域発掘調査への援助・助言	5	7	10	10	4
地方公共団体が行う飛鳥・藤原地区の発掘調査への援助・助言	13	10	7	6	0
東日本大震災の復旧・復興事業に伴う埋蔵文化財発掘調査に対する地方公共団体等への支援・協力	—	—	12	19	2
計	333	354	374	419	373
合計	652	699	839	1,335	1,196

【参考：文化財レスキュー事業(被災文化財等救出作業支援)件数推移】(件)

	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
東京国立博物館	55	8	—	—	—
京都国立博物館	5	2	—	—	—
奈良国立博物館	6	0	—	—	—
九州国立博物館	8	3	—	—	—
奈良文化財研究所	55	6	—	—	—
合計	129	19	—	—	—

※文化庁受託経費以外も含む。

(2) 研修等

・文化財担当者研修(奈文研)

遺跡の発掘調査や保存・整備等に関し、必要な知識と技術の研鑽を図るため、地方公共団体等の文化財担当職員を対象として、最新の知見を盛り込んだ専門研修15課程の研修を実施し、延べ177名が受講した。(課程数は27年度実績)

研修受講者全員に対するアンケート調査では、27年度は全員から満足との回答を得ており、充実した研修が実施できた。

・博物館・美術館等保存担当学芸員研修（東文研）

各地の文化財施設で資料保存を業務とする学芸員や行政担当者などを対象として、博物館・美術館等保存担当学芸員研修を開催した。受講者からのアンケート結果により、27年度には全員から「満足」との評価を得た。

【研修参加者数推移】（延べ人数）

	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
埋蔵文化財担当者研修	136	156	138	171	177
保存担当学芸員研修	27	30	30	31	32

※保存担当学芸員研修フォローアップ研修を除く

(3) 文化財防災ネットワーク、その他支援事業等

- ・26年度に「文化財防災ネットワーク推進本部」を設置し、文化遺産防災ネットワーク推進会議を設立した。また、第3回国連防災世界会議の一部として、国内外の専門家54名が参加した国際専門家会合「文化遺産と災害に強い地域社会」を実施した。27年度も各種の活動を継続的に実施した。（本部）
- ・東日本大震災被災地の復旧・復興事業に伴う埋蔵文化財発掘調査に対し、今までの調査・研究の成果を反映させた発掘調査への効果的な支援や報告書作成に係る支援を行った。（奈文研）

Ⅲ 業務運営の効率化に関する事項

1 一般管理費等の削減

中期目標

業務運営に関しては、「独立行政法人の事務・事業の見直しの基本方針」（平成22年12月7日閣議決定）等を踏まえ、国立文化財機構の活性化が損なわれないよう十分配慮しつつ、一層の業務の効率化を推進することにより、文化財購入等の効率化になじまない特殊要因経費を除き、中期目標の期間中、一般管理費については15%以上、業務経費についても5%以上の効率化を図ること。ただし、人件費については次項に基づいた効率化を図る。

なお、19年度の法人統合に伴い、機構の業務運営に際しては、平成23年度までの統合後5年間で、19年度一般管理費（物件費）の10%相当の経費削減を図ること。

中期計画

Ⅱ 業務運営の効率化に関する目標を達成するためにとるべき措置

1 一般管理費等の削減

中期目標の期間中、一般管理費については15%以上、業務経費については5%以上の効率化を行う。ただし、文化財購入費、文化財修復費等の特殊要因経費はその対象としない。また、人件費については次項に基づき取り組むこととし、本項の対象としない。

なお19年度の法人統合に伴い、機構の業務運営に際しては、平成23年度までの統合後5年間で、19年度一般管理費（物件費）の10%相当の経費を削減する。

このため、運営費交付金を充当して行う事業については、国において実施されている行政コストの効率化を踏まえ、事務、事業、組織等の見直しや、公用車の運転業務など外部委託できる業務を引き続き精査して計画的にアウトソーシングするなど業務の効率化を図る。

具体的には下記の措置を講じる。

- (1) 共通的な事務の一元化による業務の効率化
- (2) 計画的なアウトソーシング
- (3) 使用資源の減少
 - ・省エネルギー（エネルギー使用量は、5年計画期間中に5%削減）
 - ・廃棄物減量化
 - ・リサイクルの推進

実績

1 一般管理費等の削減

○一般管理費の削減

平成 27 年度支出額は 1,079,716 千円であり、平成 22 年支出額 932,061 千円に対し 147,655 千円(15.84%)増加している。消費税について、平成 22 年度は 132,880 千円還付され、平成 27 年度は 145,001 千円納付していることから、平成 27 年度支出額から特殊要因として消費税納付額 145,001 千円を控除した 934,715 千円と比較した場合は、2,654 千円(0.28%)の増加となる。

平成 27 年度の支出が増加している原因は自己収入財源の増加である。自己収入財源は、平成 22 年度の 74,406 千円より 190,002 千円(255.36%)増加し 264,408 千円と約 3.6 倍となっている。

運営費交付金財源は、平成 22 年度の 857,654 千円より 187,348 千円(21.84%)減少し 670,306 千円である。

○事業費の削減

業務経費(物件費)について、決算報告書による平成 27 年度支出額は 6,580,389 千円、同平成 22 年度支出額は 6,915,703 千円であり、335,314 千円(4.85%)の減少となっている。これは、平成 23 年度より文化財購入費・文化財修理費予算 1,590,277 千円が削減対象外とされたこと及び平成 26 年度より文化財購入費として 910,000 千円が予算措置されたことが主な要因である。

平成 22 年度運営費交付金収入は 8,192,326 千円であり、一般管理費財源 857,654 千円と人件費財源 3,162,333 千円を控除した 4,172,339 千円が業務経費財源となっている。平成 27 年度では、運営費交付金収入は 8,440,731 千円であり、一般管理費財源 670,306 千円と人件費財源 3,321,810 千円を控除した 4,448,615 千円が業務経費財源となっており、特殊要因として文化財購入費 910,000 千円を控除すると 3,538,615 千円と 633,724 千円(15.19%)の減少となる。

【一般管理費・業務経費推移】(千円)

事項	基準値	23 年度	24 年度	25 年度	26 年度	27 年度
一般管理費 (物件費)	932,061	917,667	680,932	606,818	832,235 (772,663)	1,079,716
業務経費費 (物件費)	6,915,703	4,918,593	5,369,179	6,213,253	6,319,081	6,580,389

※基準値は前中期期間最終年度(平成 22 年度)実績に対する 27 年度実績は、一般管理費 15.84%増(運営費交付金財源による支出は 21.84%減)、業務経費費は 4.85%減となっている。

※()内は消費税納付額を控除した場合の値

(1) 共通的な事務の一元化による業務の効率化

共通的な事務の一元化と事務の効率化のため、機構内で共通のグループウェアや財務会計システム、人事給与システムを本部主導で運営した。なお、最新の状況は以下のとおり。

- ・機構共通の業務システムである、グループウェア「サイボウズ」、財務会計システム「GrowOne」、人事給与統合システム「U-PDS」、web 給与明細システム「U-PHS HR」、また、これら各システムの基盤となるネットワーク「機構 VPN(Virtual Private Network)」の運用を継続した。
- ・国立博物館各館及び各研究成果公開施設における展覧会予定表を毎月更新し、研究調整役を中心に企画調整を継続するとともに、「研究・学芸系職員連絡協議会」を開催し、連絡・調整を行った。

(2) 計画的なアウトソーシング

毎年度、計画的にアウトソーシングをおこなった。なお、最新の状況は以下のとおり。

- ・全ての施設において、電気設備保守業務、機械設備保守業務、昇降機設備保守点検業務、構内樹木等維持管理業務、清掃業務、各種事務補助作業等について、民間委託を実施している。
- ・博物館は警備・展示室監視等業務の大部分を民間委託している。また、研究所は警備業務の全てを民間委託している。
- ・博物館の来館者サービスに関しては、売札業務、受付・案内業務、図書・写真資料を閲覧等の利用に供するサービス及び図書整理業務等について民間委託を実施している。
- ・東京国立博物館・東京文化財研究所の民間競争入札 2 件については、平成 26 年 6 月 17 日の内閣府官民競争

入札等監理委員会において、「市場化テスト終了プロセス及び新プロセス運用に関する指針」（平成 26 年 3 月 19 日官民競争入札等監理委員会）に基づき、終了プロセスへの移行が了承された。よって、平成 27 年度以降の事業については、平成 26 年度に一般競争入札にて契約を行った。

（3）使用資源の減少

平成 22 年度と平成 27 年度の比較では、電気量は 878,719 kwh(3.4%)、水道量は 2,717 m³(1.87%) 減少し、ガス量は 413,560 m³(28.04%) 増加している。平成 23 年 10 月のアジア太平洋無形文化遺産研究センター新設、平成 25 年 1 月の東京国立博物館東洋館リニューアルオープン、平成 25 年 9 月の東京国立博物館黒田記念館上島珈琲店新設、平成 26 年 4 月の東京国立博物館正門プラザ新設、平成 26 年 9 月の京都国立博物館平成知新館リニューアルオープンと平成 22 年度にはなかった新分野の研究センター新設、快適な観覧・保存環境の整備、お客様サービスの向上のための増加が主な要因である。特にガスについては、展示室等の大空間の冷暖房用エネルギーとして使用されているため増加が著しい。

使用量は、上記により東京・京都国立博物館では増加しているが、奈良・九州国立博物館、東京・奈良文化財研究所ではいずれも減少している。

【エネルギー使用量推移】

事項	基準値	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	増減率
電気使用量(kwh)	25,860,045	25,114,550	24,277,289	25,749,324	26,425,896	24,981,029	3.40%減
ガス料使用量(m ³)	1,475,110	1,725,133	1,583,761	1,912,122	1,904,708	1,888,670	28.04%増
水道使用量(m ³)	145,792	147,403	148,672	153,108	148,365	143,070	1.87%減

【廃棄物排出量推移】

事項	基準値	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	増減率
廃棄物排出量(kg)	273,407	255,976	245,438	238,041	241,900	225,151	17.65%減

※いずれも基準値は前中期期間最終年度（平成 22 年度）実績、増減率は基準値に対する平成 27 年度の実績値の減少（増加）率

2 給与水準の適正化等

中期目標

給与水準については、「公務員の給与改定に関する取扱いについて」（平成 22 年 11 月 1 日閣議決定）を踏まえ、

国家公務員の給与水準等を十分考慮して、検証したうえで、業務の特殊性を踏まえた適切な目標水準・目標期限を設定し、その適正化に取り組むとともに、検証結果や取組状況を公表すること。

総人件費についても、平成 23 年度はこれまでの人件費改革の取組を引き続き着実に実施するとともに、平成 24 年度以降は、今後進められる独立行政法人制度の抜本的な見直しを踏まえ、厳しく見直すこと。

中期計画

2 給与水準の適正化等

国家公務員の給与水準とともに業務の特殊性を十分考慮し、对国家公務員指数については現状を維持するよう取

り組み、その結果について検証を行うとともに、検証結果や取組状況を公表する。また、これまでの人件費改革の取り組みを平成 23 年度まで継続するとともに、平成 24 年度以降は、今後進められる独立行政法人制度の抜本的な見直しを踏まえ、取り組むこととする。ただし、人事院勧告を踏まえた給与改定分及び競争的資金により雇用される任期付職員に係る人件費については本人件費改革の削減対象から除く。

なお、削減対象の「人件費」の範囲は、各年度中に支給した報酬（給与）、賞与、その他の手当の合計額とし、退職手当、福利厚生費は含まない。

実績

2 給与水準の適正化等

給与については、独立行政法人通則法第 50 条の 10 第 3 項に基づき、業務の実績を考慮し、かつ、社会一般情勢（国家公務員の給与水準）に適合するよう、学歴、試験、経験及び職務の責任の度合いを基に決定している。その水準は事務・技術職員、研究職員ともに国家公務員を下回っており、適正な水準である。なお、検証結果、取組実績等を法人ウェブサイトにおいて公表している。また、福利厚生費の推移は以下のとおりであり、レクリエーション経費の支出及び国家公務員と異なる諸手当の支給はない。

【給与水準の対国家公務員指数（国家公務員の給与水準を 100 とした場合）の推移】

事項	22 年度	23 年度	24 年度	25 年度	26 年度	27 年度
事務・技術職員	96.9	94.0	96.5	97.0	97.1	98.3
研究職員	98.3	98.4	97.7	98.4	98.5	99.3

【福利厚生費推移】（千円）

事項	22 年度	23 年度	24 年度	25 年度	26 年度	27 年度
国立文化財機構	15,030	14,917	13,559	13,171	13,918	15,538

※22 年度は前中期最終年度

3 契約の適正化の推進

中期目標

契約については、「独立行政法人の契約状況の点検・見直しについて」（平成 21 年 11 月 17 日閣議決定）に基づく取組を着実に実施し、一層の競争性と透明性の確保に努め、契約の適正化を推進するとともに外部委託の活用等により、定型的な管理・運営業務の効率化を図ること。

中期計画

3 契約の適正化の推進

「独立行政法人の契約状況の点検・見直しについて」（平成 21 年 11 月 17 日閣議決定）に基づき引き続き取組みを着実に実施し、文化財の購入等随意契約が真にやむを得ないものを除き、競争性のある契約への移行を推進することにより、経費の効率化を行う。また「独法の事務・事業の見直しの基本方針」（平成 22 年 12 月 7 日閣議決定）に基づき、施設内店舗の賃借について、企画競争を導入するなど競争性と透明性を確保した契約方式とする。なお民間競争入札については、現在実施している民間競争入札の検証結果等を踏まえ、一層推進する。

実績

3 契約の適正化の推進

契約方式等、契約に係る規程類整備については、特殊な契約を除き順調に整備等がなされている。その他契約にかかる事項についても、適切に対応している。主な取り組みは以下のとおり。

- ・一般競争入札等の検証・改善については、各施設において、競争契約を原則とし、規程に定めた適切な方法により調達契約等が実施されている。また、契約監視委員会が毎年度適切に実施されている。契約情報については、本部ウェブサイト「法人情報」において公開している。
- ・施設内店舗の貸付・業務委託について、企画競争を実施した。
- ・東京国立博物館・東京文化財研究所の民間競争入札 2 件については、平成 26 年 6 月 17 日の内閣府官民競争入札等監視委員会において、「市場化テスト終了プロセス及び新プロセス運用に関する指針」（平成 26 年 3 月 19 日官民競争入札等監視委員会）に基づき、終了プロセスへの移行が了承された。よって、平成 27 年度以降の事業については、平成 26 年度に一般競争入札にて契約を行った。
- ・公益法人等への会費支出の状況については、平成 23 年度より、該当する 10 万円以上の会費は、公益財団法人日本博物館協会の維持会会員会費の 1 件のみ、平成 26 年度支出額は 235 千円である。これは、中期目標で定めた「我が国における博物館の中核として博物館活動全体の活性化に寄与する」ことを実現するため、同協会の主催する「全国博物館会議」に参画している。監事においても精査されている。また、その内容については、独立行政法人国立文化財機構のホームページ内「法人情報」、「法令等に基づく公表事項」において公表している。

【契約件数推移】

		22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
一般競争入札	件数(件)	199	132	136	171	169	160
	金額(千円)	2,009,789	3,438,898	5,135,513	4,206,183	10,028,154	3,521,258
企画競争・公募等	件数(件)	36	39	34	31	53	35
	金額(千円)	324,789	241,360	236,781	338,031	365,428	363,309
上記競争性のある契約の合計	件数(件)	235	171	170	202	224	195
	金額(千円)	2,334,578	3,680,258	5,372,293	4,544,214	10,393,583	3,884,567
随意契約	件数(件)	81	69	80	63	80	72
	金額(千円)	1,103,603	983,703	1,190,924	1,051,603	1,523,640	1,995,894

4 保有資産の有効利用の推進

中期目標

保有資産については、その必要性や規模の適切性についての検証を適切に行うとともに、本来業務に支障のない範囲で有効利用の推進を図ること。

中期計画

4 保有資産については、その必要性や規模の適切性についての検証を適切に行うとともに、有効利用の推進を図るため、映画等のロケーションのための建物等の利用や会議・セミナーのための会議室の貸与等を本来業務に支障のない範囲で実施する。

実績

実物資産、金融資産、知的財産とも適切に管理している。また、映画等のロケーションのための建物等の利用や会議・セミナーのための会議室の貸与等も本来業務に支障のない範囲で積極的に行っている。

【実物資産の保有状況】

平成27年4月1日現在

施設	土地 (㎡)	建物 (延面積 ㎡)
東京国立博物館	120,270	72,222
京都国立博物館	53,182	31,828
奈良国立博物館	78,760	19,116
九州国立博物館	166,477 (うち九博 10,798)	30,675 (うち九博 9,300)
東京文化財研究所	4,181	10,516
奈良文化財研究所	46,468	35,276

※九州国立博物館は、福岡県と分有しており、福岡県は土地 155,679 ㎡、建物 5,780 ㎡を分有、建物のうち 15,595 ㎡は共有面積である。

【施設の有効利用件数推移】（件）

	23年度			24年度			25年度			26年度			27年度		
	総件数	うち有償	うち無償	総件数	うち有償	うち無償	総件数	うち有償	うち無償	総件数	うち有償	うち無償	総件数	うち有償	うち無償
東京国立博物館	618	341	277	637	342	295	676	393	283	664	402	262	652	434	218
京都国立博物館	42	35	7	59	46	13	28	25	3	63	57	6	112	104	8
奈良国立博物館	144	28	116	139	39	100	144	43	101	117	34	83	117	33	84
九州国立博物館	264	90	174	246	86	160	269	122	147	321	120	201	392	118	274
東京文化財研究所	181	20	161	195	24	171	177	23	154	164	12	152	186	7	179
奈良文化財研究所	1,449	52	1,397	1,328	68	1,260	1,142	37	1,105	286	26	260	256	43	213
計	2,698	566	2,132	2,604	605	1,999	2,436	643	1,793	1,165	613	552	1,715	739	976

5 内部統制の充実・強化

中期目標

- (1) 法令等を遵守するとともに、業務の特性や実施体制に応じた効果的な統制機能の在り方を検討し、内部統制の充実・強化を図ること。
- (2) 外部有識者も含めた事業評価の在り方について適宜、検討を行いつつ事業評価を実施し、その結果を組織、事務、事業等の改善に反映させること。
- (3) 管理する情報の安全性向上のため、政府の方針を踏まえた適切な情報セキュリティ対策を推進し、必要な措置をとること。

中期計画

5 内部統制の充実・強化

- (1) 理事長のマネジメント強化のため業務の特性や実施体制に応じた効果的な統制機能の在り方を検討し、自己点検評価を始め監事監査、内部監査などモニタリングを行う。
- (2) 外部有識者も含めた事業評価の在り方について適宜、検討を行いつつ、年1回以上事業評価を実施し、その結果は組織、事務、事業等の改善に反映させる。また、研修等を通じて職員の理解促進、意識や取り組みの改善を行う。
- (3) 管理する情報の安全性向上のため、政府の方針を踏まえた情報セキュリティに配慮した業務運営の情報化・電子化に取り組み、情報セキュリティ対策の向上と改善を図るため定期監査等を実施する。

実績

(1) 理事長のマネジメント強化

運営上の諸課題への対応方針の決定等については、「役員会」での協議を踏まえて理事長が行った。方針の決定に当たっては「運営委員会」などの評価及び提言を十分検討するとともに、方針決定後は速やかに実施するように留意した。

内部統制として、自己点検評価、監事監査、内部監査等を行った。また、各施設間で調整を図る必要がある課題については、「国立文化財機構7施設連絡協議会」及び「国立文化財機構研究・学芸系職員連絡協議会」にて協議を行った。

監事は、役員会その他重要な会議に出席するほか、役職員から事業の報告を聴取し、重要な決裁書類等を閲覧し、本部において、財務及び業務についての状況を調査し、法人の長のマネジメントについて留意している。さらに、監事監査終了後に報告書を提出し、役員会においてその結果を報告している。また、27年度に監査室を設置し、監事の業務を補佐することにより、監事機能の強化を図った。

(2) 外部有識者による事業評価

外部有識者が委員となっている運営委員会、外部評価委員会を毎年度実施し、事業評価を実施し、その結果を組織、事務、事業等の改善に反映させた。

(3) 情報セキュリティ対策の向上

情報セキュリティ水準の向上のための機器の更新、導入を行った。また、「独立行政法人における情報セキュリティ対策の推進について」の対応として、26～27年度にかけて関連規程を見直し、28年1月に改正等を行った。更にその詳細として、「独立行政法人国立文化財機構情報セキュリティ対策基準」を作成(28年3月)し、体制整備を進めた。

IV 財務内容の改善に関する事項

中期目標

IV 財務内容の改善に関する事項

入場料収入、寄付金等による自己収入の確保、予算の効率的な執行等に努め、適切な財務内容の実現を図ること。

1 自己収入の増加

入場料収入、寄付金等の外部資金、本来業務に支障のない範囲で施設の有効利用により自己収入を確保することで財源の多様化を図り、法人全体として積極的に自己収入の増加に向けた取り組みを進めること。

また、自己収入額の取り扱いにおいては、各事業年度に計画的な収支計画を作成し、当該収支計画による運に努めること。

2 固定的経費の節減

管理業務の節減を行うとともに、効率的な施設運営を行うこと等により、固定的経費の節減を図ること。

中期計画

III 予算（人件費の見積もりを含む）、収支計画及び資金計画

管理業務の効率化を図る観点から、各事業年度において、適切な効率化を見込んだ予算による運営を行う。また、収入面に関しては、実績を勘案しつつ、入場料収入、寄付や賛助会員等への加入者の増加、募金箱の設置などによる外部資金、映画等のロケーションのための建物等の利用や会議・セミナーのための会議室の貸与等を本来業務に支障のない範囲で実施するなど、施設の有効利用により自己収入を確保することで財源の多様化を図り、法人全体として積極的に自己収入の増加に向けた取り組みを進めることにより、計画的な収支計画による運営を行う。

1 予算（中期計画の予算） 平成23年度～平成27年度

(単位：百万円)

区 分	金 額
収 入	
運営費交付金	38,692
施設整備費補助金	19,189
展示事業等収入	6,059
受託収入	130
計	64,070

支 出	
管理経費	9,929
うち人件費	3,703
うち一般管理費	6,226
業務経費	34,822
うち人件費	11,865
うち調査研究事業費	6,803
うち情報公開事業費	752
うち研修事業費	106
うち国際研究協力事業費	1,474
うち展示出版事業費	766
うち展覧事業費	12,469
うち教育普及事業費	587
施設整備費	19,189
受託事業費	130
計	64,070

2 収支計画（平成23年度～平成27年度）

（単位：百万円）

区 分	金 額
費用の部	33,898
経常経費	33,898
管理経費	7,178
うち人件費	3,703
うち一般管理費	3,475
事業経費	24,676
うち人件費	11,865
うち調査研究事業費	3,796
うち情報公開事業費	420
うち研修事業費	59
うち国際研究協力事業費	822
うち展示出版事業費	428
うち展覧事業費	6,959
うち教育普及事業費	327
受託事業費	130
減価償却費	1,914
収益の部	33,898
運営費交付金収益	25,795
展示事業等の収入	6,059
受託収入	130
資産見返運営費交付金戻入	1,628
資産見返物品受贈額戻入	286

3 資金計画（平成23年度～平成27年度）

（単位：百万円）

区 分	金 額
資金支出	64,070
業務活動による支出	31,984
投資活動による支出	32,086
資金収入	64,070
業務活動による収入	44,881
運営費交付金による収入	38,692
展示事業等による収入	6,059
受託収入	130
投資活動による収入	19,189
施設整備費補助金による収入	19,189

IV 短期借入金の限度額

短期借入金の限度額は、20億円

短期借入金が想定される理由は、運営費交付金の受入れに遅延が生じた場合である。

V 不要財産又は不要財産となることが見込まれる財産の処分等に関する計画

なし。

VI 重要な財産の処分等に関する計画

奈良文化財研究所本館改築計画の実施に伴い取り壊し予定。

VII 剰余金の使途

決算において、剰余金が発生した時は、次の経費等に充てる。

- 1 文化財の購入・修理
- 2 調査・研究、出版事業の充実
- 3 展覧会の充実
- 4 来館者サービス、情報提供の質的向上
- 5 国際協力
- 6 老朽化対応のための施設設備の充実

実績

III 予算（人件費の見積もりを含む）、収支計画及び資金計画

1 自己収入の増加

自己収入増加率は、当初は増加が見られなかったが、主要な経年データ記載のとおり、毎年度改善している。特に27年度は、博物館の入館者数の増加により、今中期目標期間中最大の自己収入となった。また、寄附金及び科学研究費採択件数も毎年度目標値を上回っており、順調に推移している。

【自己収入実績額及び増加率推移】（単位：千円）

	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
自己収入基準額	894,510	904,886	915,383	926,001	936,743
自己収入目標額	904,886	915,383	926,001	936,743	947,609
自己収入実績額	821,470	880,271	968,819	1,194,914	1,243,162
増 加 率	△8.17%	△2.72%	5.91%	29.04%	32.71%

※自己収入基準額は前年度の目標額。増加率は自己収入目標額に対する増加率。

【外部資金の獲得件数推移】（件）

	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
寄附金	393	438	486	561	577

科学研究費補助金	76	88	95	107	114
----------	----	----	----	-----	-----

2 固定的経費の節減

「Ⅱ 業務運営の効率化に関する目標を達成するためにとるべき措置 1 一般管理費等の削減」に同じ。

Ⅳ 短期借入金

該当なし。

Ⅴ 不要財産又は不要財産となることが見込まれる財産の処分等に関する計画

なし。

Ⅵ 重要な財産の処分等

奈良文化財研究所本館改築計画の実施に伴い取り壊し予定。

Ⅶ 剰余金

利益剰余金は、現金ではない前中期目標期間繰越積立金 630,514 千円、平成 26 年度の目的積立金 4,002 千円、平成 23～26 年度の積立金 279,841 千円、当期末処分利益 139,431 千円の合計 1,053,788 千円であり、過大なものとはなっていない。

平成 23～27 年度の積立金については、平成 28 年度において国庫納付する予定である。

Ⅷ その他業務運営に関する重要事項

1 施設・設備に関する計画

中期目標

各施設の安全かつ良好な施設環境を維持するとともに、業務の目的・内容に適切に対応するため長期的視野に立った施設・設備の整備計画、研究機器の整備・更新計画を作成し、整備を図ること。

中期計画

Ⅷ その他主務省令で定める業務運営に関する事項

1 施設・設備に関する計画

施設・設備の老朽化度合い等を勘案しつつ、別紙 4 のとおりの施設・設備に関する計画に沿った整備を推進する。

(別紙 4)

施設・整備の内容	予定額 (単位： 百万円)	財 源
国立文化財機構施設整備費	19,189	施設整備費補助金

(脚注)

金額については見込みである。

また、施設・設備の老朽化度合い等を勘案した改修（更新）等が追加されることがあり得る。

実績

1 施設・設備に関する計画

平成 25 年度補正予算による東京国立博物館平成館特別展示室等改修工事、なら仏像館外壁等補修工事、なら仏像館免震展示ケース等整備工事は、平成 26 年度において竣工した。

平成 27 年度は、東京国立博物館では、法隆寺宝物館展示機能充実整備等工事を実施し、工事は平成 28 年 3 月に竣工、室内環境が安定した 4 月に収蔵品の移転を行った。京都国立博物館は、文化財修理所の緊急屋根等尼漏れ補修工事を実施し、竣工した。九州国立博物館では、なら仏像館免震展示ケース等整備工事を実施し、平成 28 年 4 月竣工した。奈良文化財研究所の本庁舎建替工事は、当初計画では平成 24～28 年度の 5 年間で実施予定であったが、保存すべき重要な遺構が発見されたため、建物位置等の設計変更を実施し、平成 29 年度末竣工予定である。

2 人事に関する計画

中期目標

人事管理、人事交流の適切な実施により、内部管理事務の改善を図り、効率的かつ効果的な業務運営を行うため、非公務員化のメリットを活かした制度を活用すること。

また機構の将来を見据え、専門スタッフの配置などの計画的な確保・育成を図ること。

中期計画

2 人事計画に関する計画

(1) 方針

- ①国家公務員制度改革や類似独立行政法人等の人事・給与制度改革の動向を勘案しつつ、職員の能力や業績を適切に反映できる人事・給与制度を検討し、導入する。
- ②人事交流を促進するとともに、職員の資質向上を図るための研修機会の提供を行う。また、効率的かつ効果的な業務運営を行うため、非公務員化のメリットを活かした制度を活用する。
- ③機構の将来を見据え、専門スタッフの配置などの計画的な確保・育成を行う。

(2) 人員に係る指標

給与水準の適正化等を図りつつ、業務内容を踏まえた適切な人員配置等を推進する。

中期目標期間中の人件費総額見込額

13,087百万円

但し、上記の額は、役職員に対し支給する報酬（給与）、賞与、その他の手当の合計額であり、退職手当、福利厚生費を含まない。

実績

以下のとおり人事管理、人事交流等の実施を行った。

①能力や業績を反映できる人事・給与制度の検討・導入

- ・各年度において勤務評定制度を実施した。また、平成26年度から新たな評価制度の検討を開始した。
- ・事務系においては平成24年度より機構独自の採用制度を整備し、平成25年度より採用を開始した。研究系においては、適性・能力、年齢構成及び業務の効率化、技術の継承等を総合的に勘案し、計画的に毎年度採用した。
- ・新たに契約期間に定めのない専門的人材の確保策として専門職制度を創設した。平成26年度に採用活動を行い、平成27年度に国際交流部門に1名を配置し、出版企画分野に1名採用した。併せて当該職の人事・給与制度の整備を行なった。
- ・アソシエイトフェロー制度を活用し、優れた専門的知識等を有する者を採用・配置を行った。
- ・限られた人員数の中において、適材適所の人員配置に努めた。

【職員採用(独自採用)数推移】(人)

	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
事務系職員	—	—	1	4	2
研究系職員	13	8	6	4	6
技能・労務系職員	—	—	—	—	2
専門職(任期付専門員・ 任期付専門職員)	1	—	1	—	2
アソシエイトフェロー	18	19	17	40	25

②人事交流等の促進、研修

<事務系職員>

- (1) 本部事務局及び各施設において、東京大学、京都大学、大阪大学、九州大学及び滋賀医科大学から受け入れており、人材の確保と適材適所の人員配置を行った。
- (2) 機構内での人材育成及び人事の活性化を図るため、本部及び各施設間において人事異動を行った。

(3) 地方公共団体と相互の人事交流を行った。

<研究系職員>

- (1) 職員の適性・能力、年齢構成及び業務の効率化など総合的に勘案し採用した。
- (2) 機構内での人事交流並びに幹部職員の育成を図るため、各施設間において人事異動を実施した。

【研修実績推移】(件)

	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
新任職員	1(34人)	1(34人)	1(27人)	1(44人)	1(41人)
接遇研修会	1(34人)	1(34人)	1(27人)	1(44人)	1(41人)
個人情報保護講演会・研修	2(約200人)	1(約100人)	1(約70人)	1(約80人)	1(約80人)
個人情報管理研修	—	1(約600人)	—	—	1 (機構全職員)
施設系職員研修	1(11人)	1(延べ20人)	1(延べ19人)	1(延べ19人)	1(延べ19人)
ハラスメント研修	1(約200人)	1(約230人)	1(約70人)	1(約80人)	1(約80人)
会計系職員研修	—	—	—	1(25人)	1(25人)
文化財防災事業アソシエイトフェロー研修	—	—	—	1(21人)	1(15人)

※()内は参加者数

中期計画

3 中期目標期間を超える債務負担

中期目標期間を超える債務負担については、機構の業務運営に係る契約の期間が中期目標期間を超える場合で、当該債務負担行為の必要性及び資金計画の影響を勘案し、合理的と判断されるものについて行う。

4 積立金の使途

前中期目標期間の期間の最終年度において、独立行政法人通則法第44条の処理を行ってなお積立金があるときは、その額に相当する金額のうち文部科学大臣の承認を受けた金額について、次期へ繰り越した経過勘定損益影響額等に係る会計処理に充当する。

実績

3 中期目標期間を超える債務負担

該当なし

4 積立金の使途

該当なし